

585
教 授 要 目

付 研究指導要項

昭和 56 年度

小樽商科大学

小樽商科大学教授要目

昭和56年	4月1日(水)	目	次	前期開始
	4月18日(土)			入学式
学	年	曆	(月)	2, 3, 4年次開講
I	授業科目履修方法	1	新入生オリエンテーション
	1 昭和56年度開講科目	1	1年次開講
	2 履修方法	6	履修志願切日
	3 科目試験の受験について	28	履修科目の取消期間
II	教授要目	29	集中講義
	1 一般教育科目	29	臨時休業
	2 外国語科目	36	前期定期試験
	3 保健体育科目	58	後期授業開始
	4 基礎教育科目	62	研究指導募集期間
	5 専門教育科目	67	履修科目の取消期間
	6 教職科目	99	集中講義
昭和57年	1月30日(土)	III	研究指導要項
			102	卒業論文提出締切日
		IV	一般教育ゼミ
			121	学科課程所定オリエンテーション
	2月10日(水)			臨時休業
	2月12日(金)~2月27日(土)			後期定期試験
	3月16日(火)			卒業判定会議
	3月20日(土)			卒業式
	3月31日(水)			後期終了

自専科大学商部

大 学

学 年 曆 (昭和56年度)

昭和56年	4月1日(水)	前期開始
	4月18日(土)	入学式
	4月20日(月)	2, 3, 4年次開講
	4月20日(月) ~ 4月22日(水)	新入生オリエンテーション
	4月23日(木)	1年次開講
	5月13日(水)	履修届締切日
	7月7日(火)	創立記念日
	7月9日(木) ~ 7月22日(水)	履修科目の取消期間
	7月20日(月) ~ 7月25日(土)	集中講義
	7月23日(木) ~ 8月31日(月)	夏季休業
	9月17日(木)	臨時休業
	9月18日(金) ~ 9月30日(水)	前期定期試験
	10月1日(木)	後期授業開始
	11月7日(土)	研究指導オリエンテーション
	11月9日(月) ~ 11月28日(土)	研究指導募集期間
	11月26日(木) ~ 12月9日(水)	履修科目の取消期間
	12月7日(月) ~ 12月12日(土)	集中講義
	12月10日(木) ~ 57年1月17日(日)	冬季休業
昭和57年	1月30日(土)	卒業論文提出締切日
	2月1日(月)	学科課程所属オリエンテーション
	2月1日(月) ~ 2月9日(火)	学科課程所属募集期間
	2月10日(水)	臨時休業
	2月12日(金) ~ 2月27日(土)	後期定期試験
	3月16日(火)	卒業判定会議
	3月20日(土)	卒業式
	3月31日(水)	後期終了

I 授業科目履修方法

1. 昭和56年度 開講科目

区分	授業科目	単位数	配当年次	担当教官	備考	
一般 教育 科目	人文学系	哲学	4	I	渡辺教授	(後期) 北海道大学教授
	心理学	4	II	渡辺教授		
	歴史学	4	I	和田(完)教授		
	日本文学	4	II	東出講師		
	日本文学	4	I	村山教授		
	外国文学	英文学	4	II	豊国助教授	
	ドイツ文学	4	I	中川教授		
	フランス文学	4	II, III	高橋講師 江口助教授		
	社会科学系	社会科学概論	2	II	浜林講師	
	社会学	社会学	4	II	安井講師	
	社会思想史	4	I	倉田助教授		
	教育学	4	III	増井(三夫)助教授		
政治学	2	I	石部講師			
自然科学系	物理学	4	I	原田教授	(前期) (後期)	
自然科学概論	4	II	原田教授 原森岡教授			
化学	4	I	斉藤教授			
生物学	4	I	山田(家正)教授			
外国語	英語	I	4	I	} 備考参照	
		II	4	II		
		III	2	III		
	英語	ドイツ語	I	4	I	} 備考参照
			II	4	II	
		フランス語	I	4	I	
II	4	II	II			

語 外 国 語	中国語	{ I II	4 4	I II	阿部助教授	
	スペイン語	{ I II	4 4	I II	寺崎助教授	
	ロシア語	{ I II	4 4	I II	松本教授	
保健 体育 科目	体育講義		2	II	{ A(前期) 森岡教授 B(後期)	
	体育実技	{ I II	2	I II	杉山教授 藤江教授 田野助教授 中川講師	小樽商業高等学校教諭
基礎 教育 科目	経済学概論		4	I	{ A 加藤講師 B 鶴沢助教授	本学短期大学部講師
	商学概論		4	I	山下教授 久野教授	(前期) (後期)
	法学概論		4	I	振津講師 和田(健夫)講師	(前期) (後期)
	管理科学概論		4	I	山田(一生)教授 沼田教授	(前期) (後期)
	数学		4	I	白川助教授 兼岩助教授	
専 門 教 育 科 目	統計学		4	II	遠藤助教授	
	教理統計学		4	III	久次教授	
	経済原論 I		4	II	加藤講師 藤井教授	(前期)本学短期大学部講師 (後期)昭和50年度以前 入学者は「経済 原論」と読み替 える。
	経済変動論		4	III	増井(幸夫)教授	
	経済学史		4	III	野沢助教授	
	経済原論 II		4	II, III	花田講師	本学短期 大学部講師
	計量経済学		4	III	遠藤助教授	昭和50年度 以前入学者 は「経済学 特殊問題」 と読み替 える。
	経済史概論		4	II	井上教授	
	日本経済史		4	III	長谷川助教授	
	経済政策		4	III	福岡講師	北海学園大学教授
農業経済学		4	III, IV	崎浦講師	北海道大学教授	
社会政策		4	III	吉武教授		

専 門 教 育 科 目	財政学		4	III, IV	早見教授	
	国際経済論		4	III	佐竹助教授	
	貿易政策		4	III, IV	麻田教授	
	国際金融論		4	III, IV	足立教授	
	金融経済論		2	III, IV	釜江講師	(集中講義)山口大学助教授
	流通組織論		4	II	片桐講師	本学短期大学部教授 昭和 53年度以前入学者は「マー ケティング」と読み替える。
	マーケティング		4	III, IV	山下教授	{ 昭和53年度以前入学者 は「販売管理」と読み 替える。
	国際マーケティング		4	III, IV	森田講師	小樽女子短期大学教授
	商業英語		4	III, IV	北村講師	
	証券市場論		4	III, IV	石原(定和)助教授	
	証券金融論		4	III, IV	鈴木教授	
	経営学原理		4	II	篠崎助教授	(前期)
	企業形態論		4	III, IV	小田講師	本学短期大学部講師
	経営史		4	III, IV	辻原助教授	
	経営管理論		4	II	鶴野講師 林助教授	(後期・前半)北海学 (後期・後半)園大学 講師
労務管理論		4	III, IV	林助教授		
財務管理論		4	III, IV	佐賀講師	本学短期大学部助教授	
簿記学		4	II	{ A 中助教授 B 渡辺講師	本学短期大学部助教授	
会計学		4	III, IV	久野教授		
監査学		2	III, IV	三沢講師	(集中講義) 成蹊大学教授	
原価計算		4	III	福島講師	(前期)	
外国語特殊講義		4	III, IV	タイラ・コウジ 外国人教師	(後期)イリノイ大学教授 フルブライト法による 招聘教授	
商業 学 科 ・ 経 営	財産法 I		4	II	{ 飯塚助教授 神田教授	(前期) 昭和53年度以前 入学者は「民法 (後期) I」と読み替 える。
	財産法 II		4	III	神田教授	昭和53年度以前入学者は 「民法II」と読み替 える。
	会社法		4	III	青竹助教授	昭和53年度以前入学者は 「商法I」と読み替 える。
	商取引法		4	III, IV	石原(全)助教授	昭和53年度以前入学者は 「商法II」と読み替 える。
	憲法		4	II	結城助教授	
	行政法 I		4	III	秋山講師	本学短期大学部助教授
	労働法		4	III	道幸助教授	
社会保障法		2	III, IV	中村講師	(集中講義)北海道大学教授	
環境法		4	III, IV	飯塚助教授		

専 門	法学 コース 科目	経済法	4	Ⅲ	和田(健夫)講師		
		経済刑法	4	Ⅱ,Ⅲ	振津講師		
		国際法	4	Ⅱ	大谷教授		
		国際機構論	4	Ⅲ	丸山助教授		
		国際資源論	2	Ⅲ,Ⅳ	丸山助教授 大谷教授	(後期・前半) (後期・後半)	
		国際経済法 国際取引法	4 2	Ⅲ,Ⅳ Ⅲ,Ⅳ	清水講師 小原講師	(集中講義)神戸大学教授	
	教 育 科 目	管理 科学 科目	管理科学通論	6	Ⅱ	浅利講師	東海大学助教授
			管理科学Ⅱ	6	Ⅲ	樋口助教授	
			管理科学Ⅲ	6	Ⅲ	戸島教授 沼田教授	(前期) (後期)
			機械化会計	6	Ⅲ	山田(一生)教授	
情報処理			6	Ⅲ,Ⅳ	杉本助教授		
応用数学(代数)			6	Ⅱ	沼田教授		
応用数学(解析)			6	Ⅱ	小林講師	元北海道大学教授	
応用数学(統計Ⅰ)			6	Ⅲ	清水川助教授		
計算機論Ⅰ			6	Ⅱ	杉本助教授 樋口助教授	(前期) (後期)	
計算機論Ⅱ			6	Ⅲ	戸島教授		
研究指導	12	Ⅲ,Ⅳ	備考参照				
教 職 科 目		教育心理学	4	Ⅱ	湯浅講師	北海道薬科大学助教授	
		教育実習	2	Ⅲ,Ⅳ	足立教授 林助教授 神田教授 清水川助教授 下村助教授		
		教育史	4	Ⅱ	増井(三夫)助教授		
		職業指導	4	Ⅲ	石井講師	北海道教育大学教授	
		英文学史	4	Ⅰ,Ⅱ	永原教授		
		英文学演習Ⅰ	4	Ⅱ~Ⅳ	君羅助教授		
		言語学概論 英語学演習Ⅰ	4 4	Ⅱ~Ⅳ Ⅱ~Ⅳ	宮岡教授 武本教授		

備考

★英語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ担当教官名

武本教授, 永原教授, 宮岡教授, 君羅助教授, 下村助教授, 豊国助教授, 市川講師, マイケル・エドワード・カー外国人教師, ジャネット・ニューソム外国人教師, エリザベス・C・ヘンジベルド外国人講師, 高嶋講師(本学短期大学部助教授), 脇田講師(札幌商科大学教授), 北市講師(北海道大学教授), 片山講師(北海道大学助教授), 鈴木講師(小樽女子短期大学助教授), 西村講師(小樽女子短期大学助教授), 小林講師(北海道武蔵女子短期大学教授), マリー・シューファー講師(札幌大学講師)

★ドイツ語担当教官名

中川教授, 大塚講師, 加納講師(北海道大学助教授), 筑和講師(北海道大学助教授), 石川講師(北海道大学講師), 佐藤講師(北海道大学講師), ライナー・ブレッシュ講師(北海道大学外国人教師)

★フランス語担当教官名

江口助教授, 高橋講師, 佐藤講師(北海学園大学助教授), ブリュノ・デュボワ講師(北海道日仏学院講師)

★研究指導担当教官名

(経済学科) 長谷部教授, 麻田教授, 足立教授, 井上教授, 早見教授, 久次教授, 藤井教授, 増井(幸夫)教授, 吉武教授, 遠藤助教授, 小平助教授, 佐竹助教授, 野沢助教授, 長谷川助教授, 鶴沢助教授

(商業学科・商学コース) 久野教授, 鈴木教授, 山下教授, 石原(定和)助教授, 篠崎助教授, 辻原助教授, 中助教授, 林助教授, 福島講師, 森田講師, 斉藤教授, 和田(完)教授

(商業学科・経営法学コース) 大谷教授, 神田教授, 青竹助教授, 飯塚助教授, 道幸助教授, 丸山助教授, 結城助教授, 振津講師, 和田(健夫)講師

(管理科学科) 戸島教授, 沼田教授, 山田(一生)教授, 清水川助教授, 杉本助教授, 樋口助教授

2. 履修方法

学生は4年間在学し、次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

- (1) 単位修得については、各入学年度および各自が所属している、または、所属しようとする学科・課程によって異なるので、十分注意すること。
- (2) 2-(I)は昭和54年度以降入学者、2-(II)は昭和53年度入学者、2-(III)は昭和46年度～昭和52年度入学者、2-(IV)は昭和42年度～昭和45年度入学者が適用される。また、商業教員養成課程以外の学生で、教員免許資格を希望する者は、2-(V)及び2-(VI)を参照のこと。
- (3) 英語(I・II・III)は、1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修である。
- (4) 英語以外の外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語)は、いずれか1か国語を選択必修とし、1年次、2年次とも毎週4時間4単位ずつ計8単位を履修しなければならない。
- (5) 保健体育科目の実技2単位については、1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$ 、2年次前期または後期に毎週2時間2単位の $\frac{1}{3}$ 、計2単位、講義については、2年次前期または後期に毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。
- (6) 英文学史、英文学演習I、言語学概論、および英語学演習Iは高等学校教諭英語2級普通免許状取得のための授業科目であるが、卒業所要単位の算入されない科目として履修できる。
- (7) 研究指導は、毎週3時間、3年次から2か年継続授業で12単位(卒業論文を含む)である。なお、履修方法は、入学年度によって、違いがあるので注意すること。

昭和53年度以前入学者にあつては、所属する学科・コース・課程の区分を問わず各自の志望する研究指導を自由に履修することができる。

昭和54年度以降入学者にあつては、原則として、所属する学科・コースの研究指導を履修するものとする。商業教員養成課程に所属する学生は、学科・コースの区分を問わず、各自の志望する研究指導を履修することができる。

研究指導を履修しない学生(いわゆるノンゼミと称する学生)は研究指導分の12単位をそれぞれ所属する学科の専門教育科目の履修によって充足

しなければならない。

また、商業教員養成課程に所属する学生にあつては、経済学科・商業学科(各コース)・管理科学科の専門教育科目によって充足しなければならない。

- (8) 商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で「高等学校2級普通免許状(商業・英語)」の取得を希望する者は、第20表(商業)、第21表(1)または(2)(英語)の単位をそれぞれ修得しなければならない。

また、「中学校教諭英語科1級」の免許状を希望する者は、第21表の(3)の単位を修得すること。なお、これらの単位は卒業所要単位以外の単位である。

- (9) 2年次から、いずれかの学科または課程に所属するが、1年次の終りまでに16単位以上を修得していない場合は、(ア)学科または課程に所属することができない。(イ)2年次担当科目の履修はできない。(ウ)卒業が1年以上延期される。また、この単位数を在学期間3年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

なお、(9)については、昭和56年度入学生から適用される。

- (10) 2年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1・2年次担当科目のうちから55単位以上を修得していない場合は、(ア)3・4年次担当の専門科目の履修は認められない。(イ)研究指導に所属できない。(ウ)卒業が1年以上延期される。また、この単位を在学期間4年を経過しても修得できない場合は除籍になる。(昭和55年度以前入学者については在学期間6年とする)

この55単位の算入については下記のとおりなので、履修上注意すること。

記

一般教育科目	28単位まで算入
外国語科目	16単位 "
体育(実技・講義)	4単位 "
基礎教育科目	8単位 "
専門教育科目	2年次担当科目

ただし、専門教育科目については所属学科以外の科目について、28単位まで算入。また商業教員養成課程については専門科目の外に教職科目も算入する。

- (11) 単位の互換制について

北海道大学経済学部で下記の授業科目を履修することが認められる。この場合の身分は北大の特別聴講学生となる。

(ア) 聴講出願対象者

学則に関する細則 1. 科目履修細則第 5 条に規定する〔1, 2 年次配当科目 55 単位以上〕単位数を修得した 56 年 4 月現在の 4 年次生。

(イ) 聴講科目

聴講科目	単位	担当教官	開講時期
北海道経済史	4	林	後期

①「北海道経済史」は本学の経済学科の専門科目として扱い、卒業単位数に算入する。

② 1 科目につき、20 名が限度。

(ウ) 聴講期間 昭和 56 年 10 月～昭和 57 年 3 月

(エ) 聴講料 不要。

(2) 教職関係科目について

次のとおり開講するので、履修計画においては注意のこと。

科目名	昭和 56 年度	昭和 57 年度
教育原理	×	○
教育心理学	○	×
商業科教育法	×	○
英語科教育法	×	○
道德教育の研究	×	○
教育史	○	○
職業指導	○	○

○印 = 開講, ×印 = 非開講

2-(I) 昭和 54 年度以降入学者

1 一般教育科目、外国語科目、保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第 1 表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区分	単位数	備考
一般教育科目	人文科学系	4 以上 1 科目以上
	社会科学系	4 以上 1 科目以上
	自然科学系	4 以上 1 科目以上
	計	28 7 科目以上
外国語科目	18	{ 英語 (I・II・III) 必修 英語以外の外国語 (5 科目) のうちいずれか 1 科目
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	8	2 科目以上 { 商業教員養成課程にあっては法学 概論 (日本国憲法 2 単位を含む) }
合計	58	

(注) 一般教育科目 (人文科学系) のうち、外国文学の単位については、そのいずれか 1 科目のみを卒業所要単位数に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	法学概論 4
歴史学 4	教育学 4	生物学 4	(日本国憲法 2 単位を含む) 管理科学概論 4
日本文学 4	政治学 4		数学 4
英文学 4			
ドイツ文学 4			
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
1 科目 4 単位以上	1 科目 4 単位以上	1 科目 4 単位以上	2 科目 8 単位以上
7 科目 28 単位以上			

□ 専門教育科目の履修方法

第2表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに統計学, 経済原論Ⅰ, 経済政策, 経済史概論, 国際経済論, 金融経済論のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目 経営法学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに経営学原理, 会計学, 管理科学通論, 応用数学(代数), 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 商取引法のうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は, 原則として経済学科の研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。		

第3表 商業学科・商学コース

区分	単位数	内容
商業学科 商学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営史, 経営管理論, 簿記学, 会計学, 原価計算のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 経営 法学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学, 経済原論Ⅰ, 経済史概論, 経済政策, 国際経済論, 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 商取引法, 国際経済法, 管理科学通論, 機械化会計のうちいずれか2科目を含める。
経済学科科目 管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は, 原則として商学コースの研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は, 商学コースの科目について, さらに12単位を履修しなければならない。		

第4表 商業学科・経営法学コース

区分	単位数	内容
商業学科 経営 法学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに, 憲法, 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 経済法, 経済刑法, 労働法, 国際法のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営管理論, 労務管理論, 会計学, 経済原論Ⅰ, 経済史概論, 経済政策, 国際経済論のうち, いずれか2科目を含める。
経済学科科目 管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は, 原則として経営法学コースの研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は, 経営法学コースの科目についてさらに12単位を履修しなければならない。		

※ 昭和55年4月1日の学則変更により, 40単位のなかに「経済刑法」を追加したものである。

第5表 管理科学科

区分	単位数	内容
管理科学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに管理科学通論, 管理科学Ⅰ, 管理科学Ⅱ, 管理科学Ⅲ, 機械化会計, 応用数学(代数), 応用数学(解析), 計算機論Ⅰのうちいずれか4科目を含める。
経済学科科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学, 経済原論Ⅰ, 経営学原理, 会計学, 財産法Ⅰのうちいずれか1科目を含める。
商業学科 商学コース科目 経営法学コース科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は, 原則として管理科学科の研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。		

第6表 商業教員養成課程

区分	単位数	内容
専門教育科目 経済学科, 商業学科 (商学コース, 経営法学コースを含む。), 管理科学科の全科目。	44	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ, 統計学, 流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営管理論, 簿記学, 会計学, 計算機論Ⅰ, 事務機械化, 財産法Ⅰ, 会社法のうちいずれか6科目(24単位)以上含める。
教職科目	20	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育史, 教育実習, 職業指導を必修とする。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 1. 商業教員養成課程に所属する学生は, 学科・コースの区分を問わず各自の志望する研究指導を履修することができる。
2. 研究指導を履修しない者は, 経済学科, 商業学科 (商学コース, 経営法学コースを含む。), 管理科学科の各科目から, さらに12単位を履修しなければならない。

2-(II) 昭和53年度入学生

1 一般教育科目, 外国語科目, 保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第7表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区分	単位数	内容
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上 {商業教員養成課程にあつては法学概論(日本国憲法2単位を含む。)
合計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち, 外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	法学概論 4
歴史学 4	教育学 4	生物学 4	(日本国憲法 2単位を含む) 管理科学概論 4
日本文学 4	政治学 4		数学 4
英文学 4			
ドイツ文学 4			
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
1科目4単位以上	1科目4単位以上	1科目4単位以上	2科目8単位以上
7科目28単位以上			

□ 専門教育科目の履修方法

第8表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学, 経済原論Ⅰ, 経済政策, 経済史概論, 国際経済論, 金融経済論のうち, いずれか3科目を含める。
商業学科 商学コース科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理, 会計学, 応用数学(代数), 応用数学(解析), 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 商取引法のうちいずれか2科目を含める。
商業学科 経営 法学コース科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
<p>(注) 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。</p> <p>昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に, 「マーケティング」を「販売管理」に, 「経営管理論」を「生産管理」に, 「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に, 「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に, 「会社法」を「商法Ⅰ」に, 「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。</p> <p>昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に, 「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に, 「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に, 「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に, 「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に, 「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に, 「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に, 「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。</p>		

第9表 商業学科 商学コース

区分	単位数	内容
商業学科 商学コース科目	36	「研究指導」を除いた科目。
商業学科 経営 法学コース科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
<p>(注) 研究指導を履修しない者は, 商業学科商学コースの科目について, さらに12単位を履修しなければならない。</p> <p>昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に, 「マーケティング」を「販売管理」に, 「経営管理論」を「生産管理」に, 「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に, 「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に, 「会社法」を「商法Ⅰ」に, 「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。</p> <p>昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に, 「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に, 「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に, 「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に, 「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に, 「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に, 「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に, 「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。</p>		

第10表 商業学科 経営法学コース

区分	単位数	内容
商業学科 経営法学コース 科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに憲法, 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 経済法, 経済刑法, 労働法, 国際法のうち, いずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営管理論, 労務管理論, 会計学, 経済原論Ⅰ, 経済史概論, 経済政策, 国際経済論のうち, いずれか2科目を含める。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 商業学科経営法学コースの科目について, さらに12単位を履修しなければならない。
昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に, 「マーケティング」を「販売管理」に, 「経営管理論」を「生産管理」に, 「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に, 「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に, 「会社法」を「商法Ⅰ」に, 「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。
昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に, 「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に, 「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に, 「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に, 「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に, 「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に, 「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に, 「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

※昭和55年4月1日の学則変更により, 36単位のなかに「経済刑法」を追加したものである。

第11表 管理科学科

区分	単位数	内容
管理科学科科目	36	「研究指導」を除いた科目。
経済学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに, 統計学, 経済原論Ⅰ, 経営学原理, 会計学のうちいずれか2科目を含める。
商業学科 商学コース科目		
商業学科 経営法学コース科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に, 「マーケティング」を「販売管理」に, 「経営管理論」を「生産管理」に, 「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に, 「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に, 「会社法」を「商法Ⅰ」に, 「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に, 「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に, 「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に, 「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に, 「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に, 「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に, 「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に, 「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第12表 商業教員養成課程

区 分	単位数	内 容
専門教育科目 (経済学科, 商業学科, 管理科学科の全科目)	44	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ, 統計学, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 簿記学, 会計学, 計算機論Ⅰ, 事務機械化, 財産法Ⅰ, 会社法のうちいずれか6科目(24単位)以上を含める。
教科に関する専門科目	4	職業指導を必修とする。
教 職 科 目	16	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育史, 教育実習を必修とする。
研 究 指 導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科, の各科目から, さらに12単位を履修しなければならない。
昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に, 「マーケティング」を「販売管理」に, 「経営管理論」を「生産管理」に, 「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に, 「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に, 「会社法」を「商法Ⅰ」に, 「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。
昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に, 「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に, 「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に, 「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に, 「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に, 「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に, 「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に, 「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

2-(Ⅲ) 昭和46年度～昭和52年度入学者

イ 一般教育科目, 外国語科目, 保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第13表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区 分	単位数	内 容
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{ 英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上 { 商業教員養成課程にあっては法学概論(日本国憲法2単位を含む。)
合 計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち, 外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系		社会科学系		自然科学系		基礎教育科目	
授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
哲 学	4	社会科学概論	4	物 理 学	4	経済学概論	4
倫 理 学	4	社 会 学	4	自然科学概論	4	商 学 概 論	4
心 理 学	4	社会思想史	4	化 学	4	法 学 概 論	4
歴 史 学	4	教 育 学	4	生 物 学	4	(日本国憲法) 2単位を含む 管理科学概論	4
日本文学	4	政 治 学	4			数 学	4
英 文 学	4						
ドイツ文学	4						
フランス文学	4						
中国文学	4						
ロシア文学	4						
1科目4単位以上		1科目4単位以上		1科目4単位以上		2科目8単位以上	
7科目28単位以上							

(注) 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を一般教育科目「法学」と読み替える。

□ 専門教育科目の履修方法

第14表 経済学科

区分	単位数	内 容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学, 経済原論Ⅰ, 経済政策, 経済史概論, 国際経済論, 金融経済論のうち, いずれか3科目を含める。
商業学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理, 会计学, 応用数学(代数), 応用数学(解析), 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 商取引法のうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。
昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と, 「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。
昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に, 「マーケティング」を「販売管理」に, 「経営管理論」を「生産管理」に, 「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に, 「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に, 「会社法」を「商法Ⅰ」に, 「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。
昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に, 「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に, 「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に, 「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に, 「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に, 「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に, 「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に, 「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第15表 商業学科

区分	単位数	内 容
商業学科科目	36	「研究指導」を除いた科目。
経済学科科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 商業学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。
昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と, 「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。
昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に, 「マーケティング」を「販売管理」に, 「経営管理論」を「生産管理」に, 「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に, 「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に, 「会社法」を「商法Ⅰ」に, 「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。
昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に, 「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に, 「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に, 「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に, 「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に, 「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に, 「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に, 「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第16表 管理科学科

区分	単位数	内 容
管理科学科科目	36	「研究指導」を除いた科目。
経済学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに、統計学、経済原論Ⅰ、経営学原理、会計学のうちいずれか2科目を含める。
商業学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と、「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第17表 商業教員養成課程

区分	単位数	内 容
専門教育科目	44	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ、統計学、流通組織論、商品学、証券市場論、経営学原理、簿記学、会計学、計算機論Ⅰ、事務機械化、財産法Ⅰ、会社法のうちいずれか6科目(24単位)以上を含める。
(経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係の全科目)		
教科に関する専門科目	4	職業指導を必修とする。
教職科目	16	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育史, 教育実習を必修とする。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、経済学科、商業学科、管理科学科、法学関係の各科目から、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と、「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

2—(IV) 昭和42年度～昭和45年度入学者

イ 一般教育科目，外国語科目，保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第18表 経済学科・商業学科および管理科学科

区分	単位数	内容
一般教育科目	人文科学系	12 3科目以上
	社会科学系	8 2科目以上
	自然科学系	8 2科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III) 英語以外の外国語(5科目)のうち、いずれか1科目
保健体育科目	4	実技，講義
基礎教育科目	16	経済学概論，商学概論，管理科学概論，数学
合計	66	
備考	一般教育科目(人文科学系)のうち，日本文学および外国文学の単位については，そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。	

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4 倫理学 4 心理学 4 歴史学 4 日本文学 4	社会科学概論 4 社会学 4 社会思想史 4 政治学 4 教育学 4	物理学 4 自然科学概論 4 化学 4 生物学 4	経済学概論 4 商学概論 4 法学概論 4 (日本国憲法 2単位を含む) 管理科学概論 4 数学 4
外国文学 英文学 4 ドイツ文学 4 フランス文学 4 中国文学 4 ロシア文学 4			
3科目 12単位	2科目 8単位	2科目 8単位	全科目 必修 4科目 16単位
7科目 28単位			
(注) 昭和52年度以前入学者は「経済概論」，「法学概論」，「数学」を一般教育科目「経済学概論」，「法学」，「数学」と読み替える。			

ロ 専門教育科目の履修方法

第19表 経済学科

区分	内容	単位数	
必修科目	統計学，経済原論I，経済史概論 経営学原理，会计学，民法I，商 法I	28	
選択科目	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ に掲げる授業科目)	「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目	24
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ に掲げる授業科目)	「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目	
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ に掲げる授業科目)	「研究指導」を除いた科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ に掲げる授業科目)	「必修科目」および「研究指導」 を除いた科目	
研究指導		12	
計		80	
卒業所要単位		146	
備考 <ul style="list-style-type: none"> 研究指導を履修しない者は，経済学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 「経済原論I」を「経済原論」と，「経済原論II」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。 昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に，「マーケティング」を「販売管理」に，「経営管理論」を「生産管理」に，「財産法I」を「民法I」に，「財産法II」を「民法II」に，「会社法」を「商法I」に，「商取引法」を「商法II」と読み替える。 昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学I」に，「英文学概論」を「英文学II」に，「英文学演習I」を「英語(上級II)」に「英文学演習II」を「英語(上級IV)」に，「言語学概論」を「英語学I」に，「英語学概論」を「英語学II」に，「英語学演習I」を「英語(上級I)」に，「英語学演習II」を「英語(上級III)」と読み替える。 			

(注) 別表第1とは学則第11条の別表第1を示す。

2—(V) 第20表 商業教員免許資格取得希望者の単位修得方法

区分	単位数	必修科目
基礎教育科目	4	法学概論（日本国憲法2単位を含む）
教職に関する専門科目	16	教育原理，教育心理学，商業科教育法，教育実習，教育史
教科に関する専門科目	4	職業指導
	16	統計学，経済原論Ⅰ，流通組織論，商品学，証券市場論，経営学原理，企業形態論，簿記学，会計学，事務機械化，計算機論Ⅰ，財産法Ⅰ，会社法（4科目選択）
合計	40	

備考
 1. この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用するもので、それぞれの学科の卒業所要単位のほかに上記の単位数を修得しなければならない。
 2. 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を一般教育科目「法学」と読み替える。
 3. 昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」と読み替える。

2—(VI) 第21表 英語科教員免許資格取得希望者の単位修得方法

(1) 高等学校教諭の場合（昭和56年度入学生）

区分	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論（日本国憲法2単位を含む）	
教科に関する専門科目	36	英文学史 4 英文学概論 4 言語学概論 4 英語学概論 4 英会話・英作文 4	商業英語 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4 } 16単位
教職に関する専門科目	17	教育原理，教育心理学，英語科教育法，教育実習，教育史	
合計	57		

備考
 1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。
 2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、20表、21表両方の場合に併合できる。

(2) 高等学校教諭の場合（昭和55年度以前入学生）

区分	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論（日本国憲法2単位を含む）	
教科に関する専門科目	32	英文学史 4 英文学概論 4 言語学概論 4 英語学概論 4	商業英語 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4 } 16単位
教職に関する専門科目	17	教育原理，教育心理学，英語科教育法，教育実習，教育史	
合計	53		

備考
 1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。
 2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、20表、21表両方の場合に併合できる。
 3. 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を「法学」と読み替える。
 4. 昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英語学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。
 5. 「英会話・英作文」については、昭和56年度入学者から修得するものとする。

(3) 中学校教諭の場合

上記(1)(2)の「教職に関する専門科目」のほか、さらに「道德教育の研究」2単位を修得すれば、管理科学科所属の学生を除いて中学校教諭英語科一級普通免許状をも修得できる。

3. 科目試験の受験について

定期試験（前期，後期）およびこれに準ずる試験を受験する場合，次の注意事項を厳守して，不利益をうけることのないよう十分留意してください。

★受験に際しての注意事項

1. 指定された席に着席すること。（指定の席は，履修届により決定され，また試験開始5分前には着席していること）
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない。（座席の右前方におくこと）
3. 試験時刻に遅れた者は原則として受験できない。ただし，20分以内の遅刻者は，事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了10分前以後は退場できない。
6. 教科書，参考書，ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め，これらをむき出しのまま机の中に入れてはいけないこと。
7. 教科書，参考書，ノートなどの参照を許された試験においては，それらの貸借をしてはならない。受験生の間で，貸借のあった場合は，それを不正行為とみなす。
8. 試験において，私語，その他不正行為の疑惑を招くような行為のないよう特に留意すること。
9. 試験中の不正行為については，学則に照して処分されるから厳正な態度で受験すること。
10. 配布された答案用紙は必ず提出し，これを持ち帰ってはならない。
11. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させられる。

Ⅱ 教授要目

1 一般教育科目

哲 学

教授 渡辺祐邦

古代ギリシャの自然哲学から，現代哲学にいたる主要な哲学思想について毎年テーマを変えてお話しします。今年は昨年度にひきつづき，ヘーゲルの弁証法的論理学についてお話ししますが，単にパッシブに知識をうけとり，暗記するのではなく，アクティブに思考する習慣を養うために，テキストを読みながら討論すると云う方法をとります。このため受講者は，あらかじめ指定されたテキストの部分について，充分考えて教官の質問に答えなければならず，毎週レポートの提出を要求されます。講義のほかに，文献研究を主とするグループを設けますが，その詳細は最初の時間に説明します。どちらに参加しても良く，途中で変更することも自由です。

講義用テキスト：

ヘーゲル「小論理学」上，下，松村一人訳，岩波文庫
（文献研究のテキストは，のちほど本人に直接さしあげます）

倫 理 学

教授 渡辺祐邦

「共同存在」としての人間の存在論的構造に関するヨーロッパ倫理学の古典的著作を読みながら，現代における生と実存の意味について考察します。今年度は，昨年度にひきつづきアリストテレスの『政治学』をテキストとして取り上げますが，邦訳とともにギリシャ語の原文を併用するので，ギリシャ語文法に関する簡単な学習を当初に行います。

テキスト：

アリストテレス『政治学』，山本光雄訳，岩波文庫

田中美知太郎・松平千秋『ギリシャ語入門』岩波全書

参考書：

アリストテレス『形而上学』上・下（岩波文庫），同『ニコマコス倫理学』上・下（岩波文庫）など。

ギリシャ語の辞書は特に必要ないが，もし参照したいならば次のものが

比較的入手しやすい。Liddell and Scott, *Intermediate Greek Lexicon*.
(Oxford U.P.)

心理学 教授 和田 完

心理学の基本的性格を平易に解説し、基礎的法則や概念を理解してもらうことを目標に授業を進める。まず、行動科学としての成立を史的見地に立って説明し、動機づけ、学習、知覚、人格などの話題を提供するだろう。また心理学に関する映画が教材として利用される。

テキスト： 和田，馬場著「人間行動の諸相」明玄書房

歴史学 非常勤講師 東出 功 (北海道大学教授)

「西洋近代・現代史」

国制・経済体制の両面から両時代の特色を考える。

〔テキスト〕堀米庸三監修『西洋史展望』晶文社

第3章 近代前期

第2節 絶対王政と市民革命

第3節 資本主義の発生

第5章 現代

第2節 現代の国家体制

第3節 現体の経済・社会体制

以上の2章4節をほぼこの順序で講述する。

日本文学 教授 村山 出

私達の民俗的遺産の一つである『万葉集』をとりあげます。奈良時代までに成立した歌が千年余の時間を超えてなお私達の心に訴えかけてくることの意味を考え、文学なるものの意義を確かめたいと思います。

具体的には、作品を鑑賞しながら、(1)万葉歌の素材と主題、(2)作者達と歌風を柱にして、『万葉集』がはらむ諸問題に触れる予定です。

教科書 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著『万葉集 訳文篇』塙書房

英文学 助教授 豊国 孝

前期は英国の作家D.H.ロレンス論を彼の小説を中心にして行う。

後期はロレンスの初期の代表作である *Sons and Lovers* を読み、ロレンス文学にアプローチしたいと思う。したがって、かなりの英語力を必要とする。

テキスト： 西村孝次『ロレンスの世界』(中公新書) ¥ 360

D.H.Lawrence: *Sons and Lovers*

桐原書店 ¥ 630

ドイツ文学 教授 中川 勇 治

小説の問題を扱います。ドイツ語の知識は必要としませんが、授業の途中で挙げる作品は、和訳で読んでください。

フランス文学 (前期)講師 高橋 純 (後期)助教授 江口 修

従来、文学の歴史はもっぱら作家と作品の歴史とされてきた観があるが、それはあくまでも一学問の「対象」として作られた歴史である。同時代のものであれ、時を隔てたものであれ、享受を通じてこそ文学は具体的な歴史過程に入るものであるという認識に立つならば、文学に接することは、人間の世界経験としての言語性、従って意味理解の条件としての伝達の重要性を改めて知る緒となるだろう。こうした観点から、フランスの現代文学理論にも触れながら、フランス文学の歴史が、それを享受する者の限界や可能性に何を語りかけるものであるかを考えようとするのがこの授業の意図である。

参考資料 ロラン・バルト 『批評と真実』他

後期では、ジャンルとしての文学といった観点を離れ『知』を制度として捉える近年の思想家達の見方を踏まえ、『知』の制度の大きな転回点と思われる二つの時期—ルネサンスから古典主義成立、19世紀ブルジョワジーの覇

権確立と小説の隆盛—に焦点を絞り、文学を『知』の制度を支える言語構造変換のパラメーターの一つとして見るとどうなるのかを（このパラメーターはかなりのズレを内包するものであることが予見されるから作業は相当に困難なものになると思われる）前期と同じく作品の享受を通して考えてみたい。

参考資料 ミシェル・フーコー 『言葉と物』他

社会科学概論

非常勤講師 浜林正夫
(一橋大学教授)

社会科学思想の歴史をたどることによって、社会科学の科学としての性格、その方法論、今日におけるそのあり方などを考える。

- (1) 社会科学前史
 - (a) 神学的社会観から人間的社會観へ
 - (b) 自然法と社会の自然法則
 - (c) 科学的社会観成立の前提
- (2) 古典的社会科学思想
 - (a) アダム・スミス
 - (b) オーギュスト・コント
 - (c) ジェレミ・ベンサム
- (3) マルクスにおける社会科学
- (4) ウェーバーにおける社会科学
- (5) 現代における社会科学論

社会学

非常勤講師 安井忠次
(札幌商科大学教授)

社会学 Sociology の歴史は古いものではないが、その対象領域はきわめて広く、かつ多岐にわたっている。本講では、その中からいくつかのテーマをとりあげ、身近な生活の中の社会学として考察を進めていきたい。現在予定しているものを、つぎに2, 3例示しておこう。

- ・社会学とはどのような学問か。
- ・地域社会変動と教育の改革
- ・都市化と都市の生活
- ・職業についての基礎的考察

テーマによってテキストを使用することもあると思うが、参考書とともにそのつど述べることにする。

なお、講義の進めかたや、単位認定の方法などについては、講義の最初の時間に話すので、受講希望のものは、第1回目に必ず出席するようにしてほしい。

社会思想史

助教授 倉田稔

時間割りの都合でどのような編成のクラスが出来上がるかわかりませんが、1980(昨)年度のように、大クラス1, 小クラス1となった場合には、つぎのようにしたいと予定しています。

大クラスでは、昨年度話し残した問題を数回講義したのち、昨年度の継続として、1848年以降の社会思想史の講義をします。なんらかの形で、レポートなど書いていただくこととなります。

小クラスでは、自由研究課題をもって臨む参加者だけを対象とします。各自の研究発表を中心といたしますが、参加者の希望にしたいが、形式はおたがいに考えてゆこうと思っています。年間1つの長い論文を書いていただくことと発表とが義務となります。

両クラスとも、教科書は使いません。補助教材として『社会経済思想史文献(1)』杉山書店、を用います。

教育学

助教授 増井三夫

人間の意識の形成過程を、殊に社会との関係に於いて検討する。最初に入門的な講義をおこない、後にいくつかの文献を読んでいく予定である。

文献はその都度指示する。(尚、将来教職をとる者は本講義を受講しておくことが望ましい。)

政治学

非常勤講師 石部雅亮

(ドイツにおける
市民社会と市民法)

(大阪市立大学教授)

18世紀半ばより19世紀の半ばにかけて、ヨーロッパの伝統社会は、市民革命と産業革命の経験を経て、巨大な構造変化をひきおこした。この変化を市民社会および市民法の概念変化を究明することによって跡づけることが、この講義の主眼点である。この変化は、市民法の領域では、国家と社会の分離

という観念を基礎として、公私法の分化をもたらす。さらに、公法の領域では、主権概念および法治国家概念の形成、私法の領域では、法人格、所有権と契約の自由、小家族の概念の形成となって現われてくる。これらの諸概念の形成過程を、ドイツにおける発展を素材にしながら、解明することを本講義の目的としたい。その場合、たんに法学上の概念の形成のみならず、それを規定する政治的経済的諸条件をも考慮するほか、さらに政治思想や法思想をも問題として取り上げることとする。教科書はとくに指定しないが、参考書としては、村上淳一「近代法の形成」(岩波全書)および石部雅亮「外国法の学び方—ドイツ法」(法学セミナー1976年10月号より3年間連載)を推せんしたい。

物理学

教授 原田 稔

現代物理学の大きな基礎の一つである量子論についての初等的な解説をジョージ・ガモフ著「現代の物理学—量子論物語」(河出書房新社)にそって行う予定。

自然科学概論(前期)

教授 原田 稔

個別科学の発展史とか、“完成品”としての科学の紹介ではなしに、“発展・成長途上の物”としての科学について話をしたい。極言すると“答のない問題”について考えようとするわけである。話はどうしても抽象的になるので具体性を与える足場として物理学を用いる。教科書は使用しない。

自然科学概論(後期)

教授 森岡 知一

分子生物学の立場から自然科学を眺めてゆく。テキストは使用しない。生物体を構成する物質の生成と生命現象の把握を中心として、生命に対する将来的展望なども考えてゆきたい。

化学

教授 斉藤 要

化学は一つの教育体系をもった学問であるが、一般教育課程での化学は、その体系を希釈したり、あるいは一部を拡大したものである。本年度は物質の化学的基本粒子である原子、分子を認識してゆく唯物論的思考の歴史的歩みと方法論を述べ、さらに応用部門として放射能化学から原子力の利用と、

その発展がもたらす諸問題について述べる予定である。

なお、テキストは使用しないが、参考書は必要に応じて紹介する。さらにおりをもて実験も行う。

生物学 A, B

教授 山田 家正

講義の主題は“生命の存在様式とその進化”である。主として系統学、進化学、生態学など比較的マクロなレベルでの諸問題を取りあげ、全体を通じて“生命の流れ”を具体的に認識して貰えれば幸いである。生物学は実験科学であるが、諸事情により講義中心にならざるを得ない。それを補う意味で9月頃忍路で臨海実習(ウニの受精と発生を観察)を行う予定である。教科書は使用しない。

2 外国語科目

英語

(A) 英語履修方法

- (1) 英語の授業は、教室内における2時間の講義に対し、教室外における1時間の学習を必要とするものとし、毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする。(学則第12条の2参照)
- (2) 英語(I・II・III)は1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。(学則第10条および第11条別表第1の(2)参照)
- (3) 昭和56年度の英語クラス配置および教科の種別は別表の通りである。
- (4) 別表のうち、Eではじまる3ケタの数字はクラス別をあらわす記号である。3ケタ目の1, 2, 3は履修基準年次で、2ケタ目は教科の種別を示している。0は文学作品の講読。1は評論, 伝記, 語学書等の文学作品以外の講読で、2は会話作文等, 3は文法である。
1ケタ目の1, 2, 3……はクラス別を示す。
- (5) 基準年次に配当されているクラスの選択は自由である。しかし、英語Iは別表A群より2単位, B群より2単位, 合計4単位を選択履修し、英語IIは講読2単位と他のクラスの講読か会話, 作文等のうちいずれか2単位合計4単位, 英語IIIは講読2単位を選択履修すること。
- (6) 履修する学生は教授要目をよく読み、最初の授業に出席した上で自主的にクラスを選択すること。
- (7) 履修登録の手続きは、希望するクラス名をカードに書き込み、学生課の窓口へ提出すること。詳細について別途指示する(学生課の掲示に注意)。なお、当然のことながら、学生部長へ提出する「履修届」には、この登録の結果を記入すること。

(B) 別表(昭和56年度英語クラス)

英語 I - A 群			英語 II			英語 III			
講 読 及 び 文 法	文 学 作 品	E 101 永原	講 読	文 学 作 品	E 201 永原	講 読	文 学 作 品	E 301 永原	
		E 102 永原			E 202 永豊			E 302 永豊	
		E 103 豊国			E 203 君市			E 303 君市	
		E 104 君羅			E 204 市川			E 304 西村	
		E 105 市川			E 205 市川				
評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E 111 武本	講 読	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E 211 武本	講 読	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E 311 武本		
	E 112 武本			E 212 宮岡			E 312 下村		
	E 113 宮岡			E 213 下村			E 313 Carr		
	E 114 宮岡			E 214 下村			E 314 小林		
	E 115 下村			E 215 北村			E 315 北村		
英語 I - B 群									
講 読	文 学 ・ 評 論	E 106 市川	講 読	文 学 ・ 評 論	講 読	文 学 ・ 評 論	講 読	文 学 ・ 評 論	
		E 107 脇田							
		E 116 高嶋							
会 話 ・ 作 文	会 話 ・ 作 文	E 121 Carr	会 話 ・ 作 文	会 話 ・ 作 文	講 読	会 話 ・ 作 文	講 読	会 話 ・ 作 文	
		E 122 Carr							E 221 Carr
		E 123 Carr							E 222 Carr
		E 124 Carr							E 223 Schaefer
		E 125 Schaefer							
		E 126 Schaefer							
		E 127 Newsom							
E 128 Newsom									
E 129 Hengeveld									
文 法	E 131 宮岡								

英語 I

〔英語共通試験実施要領〕

英語 I - A 群クラスの履修と単位認定について

1. 英語 I は A 群より 2 単位, B 群より 2 単位合計 4 単位を選択履修すること。
2. 英語 I - A 群の履修者には課外テキストを指定し, 年 2 回共通試験を行う。
3. 共通試験は, 前期及び後期の各定期試験期間中に行う。前期及び後期の共通試験は両方とも受験しなければならない。
4. 英語 I - A 群の各クラスの単位は, クラスの成績と共通試験の成績とにより, クラス担当教官が認定する。
5. 課外テキスト

小川芳男・上野伊栄太『高等英文法』有精堂

※昭和50, 51, 52, 53, 54, 55年度生のうち, 英語 I の単位未得者の履修方法は56年度生の履修方法に準ずる。但し, I - A 群のクラスにかえて E 131を選択してよい。

A 群

- E 101}
- E 102}

教授 永原和夫

John Steinbeck, *The Pearl*. 雪溪書房 ¥ 700 (前期使用)

Ernest Hemingway, *The Old Man and the Sea*. 南雲堂 ¥ 780

(後期使用)

- E 103

助教授 豊国孝

Willam Faulkner: *New Orleans Sketches*. 北星堂 ¥ 600

D. H. Lawrence: *The Shadow in the Rose Garden*. 篠崎書林 ¥ 750

- E 104

助教授 君羅久則

British Short Stories of Today. 成美堂 ¥ 800

Contemporary British Short Stories. 成美堂 ¥ 730

下記の10篇の現代イギリス小説を含む, Amis を除く 9 篇を読む予定。

Graham Greene: *Dream of a Strange Land*.

H. E. Bates: *Chaff in the Wind*.

Muriel Spark: *The Father's Daughters*.

John Wain: *A Visit at Tea-Time*.

Alan Sillitoe: *Uncle Ernest*.

Elizabeth Bowen: *The Demon Lover*.

Evelyn Waugh: *On Guard*.

Angus Wilson: *Sister Superior*.

Kingsley Amis: *Interesting Things*.

Margaret Drabble: *Crossing the Alps*.

- E 105

講師 市川真理子

John Galsworthy: *The Apple Tree*. 文理 ¥ 700

- E 111

教授 武本昌三

J. F. Moran (ed.): *British Teachers in Japan*. 鶴見書店 ¥ 800

- E 112

E. O. Reischauer: *The Japanese*. 成美堂 ¥ 750

- E 113}
- E 114}

教授 宮岡伯人

Peter Farb: *The Ecology of Language*. 英宝社 ¥ 720

(意味の脈絡にたよるのではなく) もっぱら形式一文法・語法・句読法一の細部を正確におさえながら英文を解きほぐす訓練を通じて, 抽象的で難解な文章にも動じない読解力(ならびに日常会話レベルを超えた表現力)の基礎を固めることを目標とする。ただし本書の英文じたいは, けっして難解なものではない。上記テキスト版では省略されている数章をその原書(Word Play-What Happens When People Talk)からプリントで補う。

- E 115

助教授 下村五三夫

William L. McKinlay: *Karluk, The Great Untold Story of Arctic Exploration and Survival*, Granada Publishing, ¥ 950.

B 群

◦ E 106

Jerzy Kosinski: *Being There*. 三修社 ¥ 780

講師 市川 真理子

◦ E 107

非常勤講師 脇田 勇
(札幌商科大学教授)

W. S. Maugham: *The Colonel's Lady & Other Stories*.
中野好夫 編注, 英宝社 ¥ 840

◦ E 116

非常勤講師 高嶋 稔
(小樽商科大学短期大学部教授)

(1) Michael C. Mobbs: *The Polyglot Isles*. 成美堂

(2) Peter Farb: *The Ecology of Language*. 英宝社

(3) Edward De Bono: *Wordpower*, Book I. 弓書房

(4) Arkady Leokum: *et al., Where Words Were Born*. 朝日出版社

◦ E 121 }
◦ E 122 }
◦ E 123 }
◦ E 124 }

外国人教師 Michael Carr

Starting Strategies and Workbook. Longman.

In these classes the emphasis is on communication in English.
Attendance (more than five absences will result in failure)
and participation are required.

◦ E 125 }
◦ E 126 }

非常勤講師 Marrie Schaefer
(札幌大学講師)

Modern English an Oral Approach, Revised Edition, Books 6 and
7 and Charts and Pictures. Seido Language Institute.

These are classes in spoken English. Classroom work will
emphasize active participation in oral drill and conversation.
Therefore weekly class participation is important and attendance

is required. More than 5 absences will result in failure. Students
are also required to attend the Language Laboratory to listen to
each week's lesson. Lessons from the textbook must be memorized
so that correct responses can be given without the text. No mid-
year of final examination will be given. Grades will be determined
by class participation, occasional classtime quizzes and Language
Laboratory tests.

◦ E 127 }
◦ E 128 }

非常勤講師 Janet Newsom
(宣教師)

Starting Strategies and Workbook, Longman.

◦ E 129

非常勤講師 E. C. Hengeveld
(小樽女子短期大学講師)

Alexandre: *Mainline Progress* (B), Longman, ¥ 1,500.

文法

◦ E 131

教授 宮岡 伯人

吉川美夫・吉川道夫 *English Grammar* (I) Syntax & (II) Parts of
Speech. 松柏社 I・II各 ¥ 720。

小川芳男・上野伊栄太『高等英文法』。有精社。

正確な読解力と日常会話レベルを超えた表現力の基礎としての文法の整理。

英語 II

◦ E 201

教授 永原 和夫

Carson McCullers: *The Heart is a Lonely Hunter*. Penguin Books,
¥ 900.

◦ E 202

助教授 豊国 孝

Herbert Ernest Bates: *The Golden Oriole & Other Stories*.
英宝社 ¥ 720

D. H. Lawrence: *The Man Who Loved Islands*. 桐原書店 ¥ 550

◦ E 203 助教授 君 羅 久 則

Margaret Drabble: *The Millstone*. Eichosha-Penguin Books
英潮社, ¥ 890

◦ E 204 } 講 師 市 川 真 理 子
◦ E 205 }

Noel Coward: *Private Lives*. 鶴見書店 ¥ 750

◦ E 206 非常勤講師 西 村 千 稔
(小樽女子短期大学助教授)

山県敏夫・田中保編注 *Dream and Wrath in America*. 朝日出版社

アメリカ文学の中のいくつかの短編を扱う。

アメリカ文学がヨーロッパ文学に基盤を置きながら、独自の文学を、特に短編小説において確立してきたといわれる点、さらに詩の特質であった「緊張」が短編小説にも見いだされなければならないという理論とその成果という点などから、アメリカ短編集を扱う意義はあると思う。

授業では、「アメリカの夢と怒り」というテーマで八人の作家の短編を読んでいきたい。その中のひとりであるエドガー・アラン・ポーの作品の冒頭の部分を挙げてみると次のようなものである。

True! —nervous—very, very dreadfully nervous I had been and am; but why *will* you say that I am mad? The disease had sharpened my senses—not destroyed—not dulled them. Above all was the sense of hearing acute. I heard all things in the heaven and in the earth. I heard many things in hell. How, then, am I mad? Hearken! and observe how healthily—how calmly I can tell you the whole story.

It is impossible to say how first the idea entered my brain; but once conceived, it haunted me day and night. Object there was none. Passion there was none. I loved the old man. He had never wronged me.

◦ E 207 非常勤講師 片 山 厚
(北海道大学教授)

William Faulkner: *Moonlight & Others*. 篠崎書林 ¥ 800

ちなみに、W. Faulkner は現代アメリカの小説家である。

◦ E 208 非常勤講師 片 山 厚
(北海道大学教授)

William Faulkner: *The Hound and Other Stories*. 南雲堂 ¥ 880

ちなみに、W. Faulkner は現代アメリカの小説家である。

◦ E 209 非常勤講師 脇 田 勇
(札幌商科大学教授)

Somerset Maugham: *Sanatorium & A Man from Glasgow*.

中西信太郎編注, 南雲堂 ¥ 600

◦ E 211 教 授 武 本 昌 三

Mario Pei: *All About Language*. 成美堂 ¥ 730

出席を重視し、欠席が三分の一を越える者には例外なく単位は認めない。遅刻はすべて欠席扱いにする。

◦ E 212 教 授 宮 岡 伯 人

Edward Sapir: *Language* (1933). (プリント配布)。

E 113・114 の説明を参照。

◦ E 213 助教授 下 村 五三夫

Sidney Cohen: *Drugs of Hallucination, The LSD Story*. Paladin, ¥ 540.

◦ E 214
Thomas S. Szasz: *The Myth of Mental Illness, Foundations of a Theory of Personal Conduct*. Paladin, ¥ 1080.

◦ E 215

非常勤講師 北 市 陽 一
(北海道大学教授)

テキスト『ユーモア アメリカ小史』(北星堂書店)
史実や逸話を通してアメリカ人の常識の一端を知り、また英語の多義性を理解するのが目的、なお、2冊目のテキストについては後日発表します。

出席は重視し、前期の欠席日数が三分の一を越える受講者には、後期の履修を認めません。念のために。

◦ E 216

非常勤講師 小 林 謙 一
(北海道武蔵女子短期大学教授)

Art Buchwald: *Tales of America Today*. 成美堂 ¥ 780

アート・バックウォルドは、アメリカで今もっとも人気の高いコラムニストである。そのコラムを集めた本はかならずベストセラーになり、彼のコラムは全米380紙に掲載されていると言われることも彼の人気をうかがわせる。本書は彼独得の軽妙なタッチで、今日のアメリカ文化を諷刺したものであるが、活きのよい口語や俗語が随所にみられ、ジャーナリストとしての彼の筆の冴えと切味の鋭さとが感じられる。彼の essays を味読することにより、世に言う living English の実態にふれてみたい。

演習科目であるので、①出席を重要視する。②期末テストは原則として行わない。③日常の授業時の平常点と、隔月行うテストにより評点・評価する。

◦ E 217 }
◦ E 218 }

非常勤講師 鈴 木 良 克
(小樽女子短期大学助教授)

テキスト: *MAN & CULTURE*. 研究社 ¥ 1500

◦ E 221 }
◦ E 222 }

外国人教師 Michael Carr

Building Strategies. Longman.

In these classes the emphasis is on communication in English. Attendance [more than five absences will result in failure] and participation are required.

◦ E 223

非常勤講師 Marrie Schaefer
(札幌大学講師)

Modern English an Oral Approach. Revised Edition, Books 7 and 8 and Charts and Pictures. Seido Language Instiute.

This is a class in spoken English. It is Particularly for those students who wish to develop and improve their speaking ability. Classroom work will emphasize oral drill and conversation.

Therefore weekly class participation is important and attendance is required. More than 5 absences will result in failure. Students are also required to attend the Language Laboratory to listen to each week's lesson. Lessons from the textbook must be memorized so that correct responses can be given without the text. No mid-year or final examination will be given. Grades will be determined by class participation, occasional classtime quizzes, and Language Laboratory tests.

英 語 III

◦ E 301

教授 永 原 和 夫

E. M. Forster: *A Passage to India*, Eichosha-Penguin Books, ¥ 1700.

◦ E 302

助教授 豊 国 孝

D. H. Lawrence: *England, My England*. Penguin Books.

彼の作品と実生活の中で人間関係を探究した英国の作家, D. H. ロレンスの短編小説を読む。

◦ E 303

助教授 君 羅 久 則

C. Dolley (ed.): *The Second Penguin Book of English Stories*.

Eichosha-Penguin Books 英潮社, ¥ 1500.

T. Hardy 以降の現代イギリス小説15篇を含む短篇集である。そのうち下

記の短篇を下記の順序でとりあげ、クラスで読む予定。更に50頁位を課外で読んで貰うことを考えている。詳細は最初の授業時に説明するので履修希望者は必ず出席されたい。

V. S. Pritchett: *Handsome Is as Handsome Does* (P.214).

Graham Greene: *The Destructors* (P.254).

Angus Wilson: *After the Show* (P.271).

Muriel Spark: *You Should Have Seen the Mess* (P.301).

Kingsley Amis: *Interesting Things* (P.308).

◦ E 304

非常勤講師 西村 千 稔
(小樽女子短期大学助教授)

小山敏三郎編注「詳注ホーソン短篇集」 南雲堂

ナサニエル・ホーソンの短編を扱う。

ホーソンは、十九世紀のアメリカ文学の隆盛期—いわゆるアメリカン・ルネッサンスと呼ばれる時代の代表的作家のひとりである。彼の文学の特徴のひとつは、代表作「緋文字」にも見られるように人間の両面—すなわち表面と裏面、明るさと暗さ、現象面と真理などの追求にあるといわれる。

授業で取り扱う“The Birthmark”と“Ethan Brand”にも彼の文学の特質は表われている。授業では作品研究を通じて人間の深遠を求めて、人間とは何か、真理とは何かを追求できればと思っている。

作品“The Birthmark”の冒頭の部分を挙げてみると次のようなものである。

In the latter part of the last century there lived a man of science, an eminent proficient in every branch of natural philosophy, who not long before our story opens had made experience of a spiritual affinity more attractive than any chemical one. He had left his laboratory to the care of an assistant, cleared his fine countenance from the furnace smoke, washed the stain of acids from his fingers, and persuaded a beautiful woman to become his wife. In those days when the comparatively recent discovery of electricity and other kindred mysteries of Nature seemed to open paths into the region of miracle, it was not unusual for the love of science to rival the

love of woman in its depth and absorbing energy.

◦ E 311

教授 武本 昌三

Ronald V. Bell: *The Japan Experience I*. 研究社 ¥ 560

例年の通り、reading, writing, hearing, speakingのall-roundなpracticeを行なう。はじめのorientationの期間を除いて、毎週小テストを受けてもらうが、その回数が15回に達しない者には例外なく単位は認めない。(ただし、これはテストを15回受けさえすれば単位を認める、という意味ではない)。

年間三分の一程度の脱落者が出るのが通例なので、このクラスの授業内容については、十分に納得した上で選択していただきたい。

第一週から宿題を出し、第二週の授業はテストからはじめる。第三週以下これをくり返す。授業の大半はテキストなしで行われるので、十分な復習と予習を毎週続けなければ、通常、このクラスにはついてこれない。

◦ E 312

助教授 下村 五三夫

Erich Fromm: *The Anatomy of Human Destructiveness*. Fawcett Crest, ¥ 950.

“Man seeks for drama and excitement; when he cannot get satisfaction on a higher level he creates for himself the drama of destruction.” —Erich Fromm.

◦ E 313

外国人教師 Michael Carr

A Practical Approach to Newspaper English. Nan'un-do.

This class will study English composition in current newspaper articles. Attendance and participation are required.

◦ E 314

非常勤講師 小林 謙一
(北海道武蔵女子短期大学教授)

Desmond Morris: *Manwatching*. 金星堂 ¥ 920

ManwatchingとはbirdwatchingにならったDesmond Morrisの造語で、birdwatcherが野鳥を観察するように人間の行動を観察するとの意である。

非言語的コミュニケーションにおいて、人間が身体活動によってなんと多くのことを伝達していることか、身振りや対人距離などが意味を持ち、ある種のコードの体系をなしていることは Kinesis(動作学), Proxemics(人間空間学) のすでに教えるところである。人間には、その高度の精神作用とは別に、本能的・無意識的に演じられる様々な仕草・行動があるが、その意味の解明なくして真の人間理解はありえない。本書は、このような人間の行動パターンと、コミュニケーションの一環たる言語との関わり合いを解明せんとするものである。

演習科目であるので、①出席を重要視する。②期末テストは原則として行わない。③日常の授業時の平常点と、隔月行うテストにより評点・評価する。

◦ E 315 非常勤講師 北 市 陽 一
(北海道大学教授)

Peter Milward 『新聞と私見』(南雲堂) ¥ 800

このクラスでは新聞や雑誌の英語を取りあげます。まず最初は、ピーター・ミルワール氏のエッセイ集を読み、おわり次第、*Newsweek* や *Time* を読みます。

なお、出席を重視し、前期の欠席日数が三分の一を越える受講者には、後期の履修を認めません。念のために。

ドイツ語 I・II

ドイツ語の授業は下記のクラス編成により行なわれる。

	ド イ ツ 語 I				ド イ ツ 語 II			
火	I	A	ブ	レッシュ	II	A	ブ	レッシュ
	I	B	中	川	II	B	中	川
	I	C	大	塚	II	C	大	塚
	I	D	石	川	II	D	石	川
木	I	E	大	塚	II	E	大	塚
	I	F	加	納	II	F	加	納
	I	G	佐	藤	II	G	佐	藤
	I	H	筑	和	II	H	筑	和

1. クラス説明

- (1) I A・II Aは、ドイツ人講師による会話主導の授業。
- (2) I B・C・Dは講読、I E・F・G・Hは文法である。
- (3) ドイツ語IIは、II A以外すべて講読である。

2. 履修方法

- (1) ドイツ語I・IIともに、火曜日と木曜日の授業から必ず一科目ずつ履修すること。
- (2) I A・II Aとも履修者数を教室の都合上40名迄とする。
なお、II A・I A(再履修者)とも、前年度のブレッシュ講師による授業の履修を前提としない。
- (3) ドイツ語I・IIともAクラス以外は名簿により下記の要領でクラス分けを行なう。

火曜日	Aクラス	希望者	
	Bクラス	学生番号	1 ~ 130 番
	Cクラス	学生番号	131 ~ 260 番
	Dクラス	学生番号	261 ~ 最終番
木曜日	Eクラス	学生番号	1 ~ 100 番
	Fクラス	学生番号	101 ~ 200 番
	Gクラス	学生番号	201 ~ 300 番
	Hクラス	学生番号	301 ~ 最終番

なお、このクラス分けは全学年に共通である。

3. 注意事項

- (1) 各クラスとも授業出席を重視する。各学期1/3以上欠席した者には、原則として各試験の受験資格を与えない。
- (2) ドイツ語Iのオリエンテーションを4月23日(木)に行なうので、ドイツ語I履修希望者は必ず出席すること。なお、ドイツ語IIのオリエンテーションは今年度は行なわない。
- (3) 辞書・参考書の紹介は、オリエンテーションで行う。

ドイツ語 I

I A 非常勤講師 ライナー・ブレッシュ
(北海道大学外国人教師)

下記の語学フィルムを用いて授業を行なう。

ゲーテ・インスティトゥート編 Guten Tag.

授業内容は、毎回フィルムを見ることから始まり、会話テキストの口頭練習、文法事項の説明、テープによる反復練習を経て、最終にフィルムの内容を(自分の言葉で)叙述することで終わる。

この授業の主眼は、目と耳と口を用いた徹底的な練習によってドイツ語の文章のパターンが自然に身に付くようにすることにあるので、出席を重視し各学期3回以上欠席した者には単位を認めない。また定期試験期間中には試験を実施せず、平常授業で各学期2回ないし3回行なう。

なお、最初の授業の際にこのクラスのオリエンテーションを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。

テキスト：小塩節編「現代のドイツ語会話——グーテン・ターク」

三修社 ¥950

I B 教授 中川 勇 治

テキスト：岡田朝雄・M・ミュンツァー著「ドイツー出逢い」

朝日出版社 ¥1,200

I C 講師 大塚 譲

テキスト：千石 喬・H・シュタインベルク著「現代のドイツ語」

朝日出版社 ¥1,200

平易な文章に数多く接し、文法規則にあまりとらわれずにドイツ語に習熟していくこと、ここに授業のねらいがある。予習をして出席すること。万一それができなかった場合には必ず復習すること。とにかく根気強く参加して下さい。

I D 講師 石川 裕 美
(北海道大学講師)

教科書：「文法読本・ドイツ語の泉」 同学社 ¥980

I E 講師 大塚 譲

テキスト：岩崎英二郎著「最新版・岩崎初歩文法」同学社 ¥1,100

数多くの例文・練習問題を通して文法規則の徹底的な習得を図る。根気強い参加を期待します。

I F 非常勤講師 加納 邦 光
(北海道大学助教授)

教科書：ドイツ文法の要点 著者 長谷川 登 朝日出版社 ¥980

ドイツ語の文法は、おぼえることがたくさんあるので、特に新学期は休まないようにして下さい。出席も毎回とります。予習が大切ですので、次に習うことを、あらかじめ目を通して、授業中にわからない所を質問して、できる限り、解決するようにしておくと、試験がずいぶん、楽になります。練習問題も自宅でやってきて、授業に参加するようにして下さい。

I G 非常勤講師 佐藤 拓 夫
(北海道大学講師)

教科書：「こんにちのドイツ文法」(小塩節著、朝日出版社)

一年間でドイツ語の文法をみっちりやります。出席を重視します。

I H 非常勤講師 筑 和 正 格
(北海道大学助教授)

教科書：「小塩・新しいドイツ文法〔改訂版〕」 三修社 ¥980

ドイツ語 II

II A 非常勤講師 ライナー・ブレッシュ
(北海道大学外国人教師)

今年度は昨年度に引き続き下記語学フィルムを用いて授業を行なう。

ゲーテ・インスティトゥート編 Guten Tag. (Episode 10から)
授業内容は、毎回フィルムを見ることから始まり、会話テキストの口頭練習、文法事項の説明、テープによる反復練習を経て、最後にフィルムの内容を(自分の言葉)で叙述することで終わる。

この授業の主眼は、目と耳と口を用いた徹底的な練習によってドイツ語の文章のパターンが自然に身に付くようにすることにあるので、出席を重視し各学期3回以上欠席した者には単位を認めない。また定期試験期間中には試験を実施せず、平常授業で各学期2回ないし3回行なう。

なお、最初の授業の際にこのクラスのオリエンテーションを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。また、昨年度履修していない者でも、早目にテキストを購入し、Episode 9までを自習して授業に臨めば十分参加可能であろう。

テキスト：小塩節編「現代のドイツ語会話——ゲーテン・ターク」

三修社 ¥950

II B 教授 中川 勇 治

テキスト：ゲオルク・グロス・守山晃・藤川芳朗編「ひとつのメールヒェン」 白水社 ¥750

II C 講師 大塚 讓

テキスト：ヘルベルト・ライネカー著「ピアニスト殺害事件」

芸林書房 ¥700

前期のうちにこれを読み終えて、後期はもっと本格的なものに取り組みたい。時間の余裕があれば、短かい時事的な文章や論文調の文章も扱う予定。最後までねばり強くやりましょう。

II D 講師 石川 裕 美

教科書：「ケンプさんの北海道便り」 三修社 ¥560

II E 講師 大塚 讓

テキスト：オト・フラーケ「琥珀の島」 郁文堂 ¥500

中級初期向きの読みやすい童話。後期はもっと本格的なものを扱う。時間の余裕をみて、短かい時事的な文章や論文調の文章にも触れてみたい。最後までねばり強くファイトをもってやりましょう。

II F 非常勤講師 加納 邦 光
(北海道大学助教授)

教科書：「中級読本・ドイツの文化とことばII」著者 高松・仲田・コンフ
ルト 芸林書房 ¥900

一年で習った文法を基礎にある程度、ドイツ語を読めることを目標にします。その際、できる限りドイツについての情報を提供し、学生諸君と共に日本との違い、お互いの長所、短所を考えていきたいと思えます。予習が大切なので、授業に出るには必ず予習してきて、授業中に疑問点を解決するようにして下さい。出席は毎回とります。

II G 非常勤講師 佐藤 拓 夫
(北海道大学講師)

テキスト：未定(プリント使用)

一年目で学んだ文法事項をより確実なものにするため、実際のテキストにあたって、種々の訓練をおこないます。出席を重視します。

II H 非常勤講師 筑 和 正 格
(北海道大学助教授)

教科書：「中級ドイツ語」(E・クレーベルク、石川、筑和著)

芸林書房 ¥1,600

1年はドイツ語の文法を、2年は中級文法読本を扱う。十分な予、復習をした上、出席すること。

フランス語 I・II

フランス語の授業は下記のクラス編成により行なわれる。各学生の所属すべきクラスは追って指示する。

	フランス語 I			フランス語 II		
火	I A I B I C	(佐藤) (高橋) (江口)	II A II B II C	(江口) (佐藤) (高橋)		
木	I A I B I C	(高橋) (江口) (デュボア)	II A II B II C	(高橋) (江口) (デュボア)		

- (1) フランス語 II のクラスは前年のフランス語 I のクラスと同じ。
- (2) Cクラスは会話中心のクラスで選択制となっている。授業効果の面から定員を原則として25名とする。なお、このクラスは、特に、学生の自主的努力と熱意を要求するので、よく考えて選択すること。

フランス語 I 助教授 江口 修

I B (木曜日) 用書: 佐藤房吉他編『新基礎フランス文法』(改訂版)
白水社 ¥ 850

I C (火曜日) 用書: G. MAUGER M. BRUEZIERE <le francais et la vie> (HACHETTE) ¥ 1,680

フランス語 I 講師 高橋 純

I A (木曜日) 用書: 土居寛之編『新12課のフランス語』('81年度版)
朝日出版社 ¥ 940

I B (火曜日) 用書: 窪川英水編『基本フランス語読本 花言葉』
朝日出版社 ¥ 1,100

フランス語 I 非常勤講師 佐藤 卓司 (北海学園大学助教授)

I A (火曜日) 用書: 倉田清・高橋康子共編『パンセ・プール・ヌウ』

芸林書房 ¥ 800

フランス語 I 非常勤講師 BRUNO DUBOIS

I C (木曜日) L.L.: <<C'est le printemps I>> 視聴覚教材を用い教室でプリントを配布。発音練習, 簡単な会話を中心とする。言語表現は社会的行動様式と結びついたものであるから, 学生諸君はフランス人の日常生活に関する著作を少なくとも一冊は読むように。

フランス語 II 助教授 江口 修

II A (火曜日) 用書: アラン・フルニエ著/西節夫編注『モーヌの大将』
朝日出版社 ¥ 780

II B (木曜日) 用書: ピエール・ダニノス著/福井芳男他編『ダニノスコープ』 行人社 ¥ 550

フランス語 II 講師 高橋 純

II A (木曜日) 用書: イヴ=マリ・アリュウ著/岩崎力編『日本点描』
白水社 ¥ 800

II C (火曜日) 用書: 加藤晴久編『新聞のフランス語-Q&A-』
朝日出版社 ¥ 880

フランス語 II 非常勤講師 佐藤 卓司 (北海学園大学助教授)

II B (火曜日) 用書: リュシアン・ゴルドマン著/古田幸男編『文学と芸術の反乱』 芸林書房 ¥ 700

フランス語 II 非常勤講師 BRUNO DUBOIS

II C (木曜日) L.L.: <<C'est le printemps II>> 会話・発音および構文練習。授業への出席が要望されることはもちろん, フランスに関する日本語の著作も読むように。(森有正の作品等)。

推せん辞書

- (1) 多田道太郎他編『クラウン仏和辞典』三省堂
- (2) 鈴木信太郎他編『スタンダード仏和辞典』大修館
- (3) 井上源次郎他編『新仏和中辞典』白水社

フランス語履修上の注意

- (1) 外国語の学習は教室での練習が大事です。したがって授業出席を重視します。
- (2) 定期試験以外にも折にふれて試験を実施することがあります。かならず受験しなければなりません。

中国語 I

助教授 阿部 泰 記

テキスト：白水社中国語教科書読本篇（上）
辞書：中日大辞典（愛知大学中日大辞典編纂処編）

中国語 II

助教授 阿部 泰 記

テキスト：白水社中国語教科書会話篇（下）（継続）

スペイン語 I

助教授 寺崎 英 樹

テキスト：寺崎英樹『スペイン語文法の基礎』芸林書房
吉田秀太郎『スペイン語第一歩』芸林書房

推せんする辞書：高橋正武『西和辞典』白水社
積極的なクラス参加を重視します。その他方針と概要は開講時に説明します。なお、次の点に注意してください。

- (1) 履修希望者は、第1回（4月23日）から第3回（4月30日）までのクラスに少なくとも1回は必ず出席し、確認を受けること。この期間の出席者を実質的な履修者とみなします。
- (2) スペイン語を第1志望とする1年生と再履修者が非常に多いため、スペイン語への志望変更は、いっさい認めません。

スペイン語 II

助教授 寺崎 英 樹

テキスト：G・Marañón, Meditaciones（随想）大学書林
後期は、別のテキストを使用する予定。

積極的なクラス参加を重視します。その他方針と概要は、開講時に説明します。

単位取得に関して、スペイン語Iより先にIIのみの単位を取得することは認めませんから、Iを未取得の学生は留意してください。

ロシア語 I

教授 松本 忠 司

発音、文法、訳読、作文の初歩。

テキスト：新田実著 ロシア語16課 白水社

辞書：現在市販のものにはそれぞれ長短があるが、次のうち1点はぜひとも用意すること。

八杉貞利編 岩波ロシア語辞典 岩波書店

木村彰一編 博友社ロシア語辞典 博友社

井桁貞敏編 コンサイス露和辞典（改訂版）三省堂

ほかに、ロシア語世界の背景を知るために、次の本をすすめる。

東郷正延ほか編 ロシア・ソビエトハンドブック 三省堂

ロシア語 II

教授 松本 忠 司

昨年度にひきつづき、「ロシア語16課」を使用し、その最後の部分の学習を通じて、ロシア語の基礎的な表現および文法的知識を修得し、その後は文学作品および社会科学関係の諸論文の講読に主眼をおく。テキストはプリント刷りになる予定。

3 保健体育科目

体育実技 I・II

教授 杉山 登

教授 藤江 正

助教授 田野 有一

非常勤講師 中川 平悟
(小樽商業高校教諭)

I 体育実技の履修について

体育実技は必修科目であり、各自所定の時間に出席しなければならない。本学では1年目で毎週2時間(60時間)、2年目は前期・後期各2時間(30時間)を選択履修することになっている。

体育実技実施種目は必修種目と選択種目とからなり、必修種目として1年目は体力診断テスト、トレーニング法の実践、器械運動、水泳、スキー等を行なう。2年目では水泳かスキーのいずれかを選択必修とする。また、選択種目としては下記Ⅲにあげた5種目中より、1・2年目とも1種目を選択履修し、2年目についてはこの種目を前・後期のいずれかで選択履修するものとする。

II 必修実技種目とその内容

(1) 体力測定

体力診断テスト……反復横とび、垂直とび、背筋力、握力、伏臥上体そらし、立位体前屈、踏み台昇降

以上の7種目で測定実施時期は、第1回目5月上旬、第2回目が11月上旬である。体力の優劣判定は、文部省体育局のテスト判定基準により、総合点によってA・B・C・D・Eに区分されるが自己の体力の現状を把握しておくことが肝要である。

(2) 器械運動

マットワーク、跳び箱(跳馬)、トランポリンの3種目について予め用意されている課題[compulsory]のマスターに努める。課題そのものは高度なものではないが、運動の質的 pursuit ともいふべき技のこなし、技と技とのつなぎ等を考察し、最終的には、どう演ずれば美しいか、雄大なのか、そして安定性が期待できるのか…を実技を通して学ぶ。

(3) トレーニング

トレーニング法とその実際について知っておくことは、学生生活および社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかる場合に極めて大切なことである。4月～5月の期間を体力づくりのための一般的トレーニング法、器具器材使用法、トレーニング処方等について実習し、授業時間外でも自分で処方し、自発的に継続実施できるようにもってゆきたい。なお、体力の劣る者(体力診断テストの結果、D・E級の者)については、5月以降も継続指導してゆきたい。

(4) 水泳

自己安全管理の一環として、水からの事故防止のため水泳技術を修得しておくことは極めて大切なことである。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、4班に分け各班ごとに下記の内容で実施する。技術修得の過程で班を移動する者もある。実施期間等については、6月下旬～7月中旬にかけて2週間(4時間)と夏季休暇後2週間(4時間)で実施する。詳しい日時はおって掲示等により通知する。

水泳実技内容

区 分	実 技 種 目	テスト種目(泳法・距離泳)
初級 Aグループ	・立ち方・背浮・立ちとび込み ・伏し浮・簡易泳法	・背浮・伏し浮からの立ち方……泳法 ・簡易泳法で10m以上……距離泳
中級 B・C グループ	・クロール・平泳 ・背泳・横泳 ・逆とび込み・潜行	・泳法2種選択……泳法 ・1種目で25m以上……距離泳
上級 Dグループ	・クロール・平泳 ・背泳・バタフライ ・横泳・立泳	・泳法3種選択……泳法 ・1種目で50m以上……距離泳

(5) スキー

室内に閉じこもり勝ちな雪国の生活において、自然に親しみながらスキー技術を習得することは、冬季体育の一環として、また将来の社会生活をたのしく健康的なものとするためにも極めて有意義である。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、4班に分け各班ごとに下記の内容で実施す。実施時期等については、1月中旬～2月中旬にかけて4週間(8時

間)実施するが、詳しい日時については、おって掲示等により通知する。

スキー実技内容

区分	実技種目	テスト種目
初級 Aグループ	・歩行・滑走法・方向変換 ・転倒法・登行法・直滑降 ・プルーク・ボーゲン ・シュテム・ターン	・プルーク・ボーゲン ・シュテム・ターン
中級 B・C グループ	・プルーク・ボーゲン・横すべり ・斜滑降・シュテム・ターン ・パラレル・ターン	・シュテム・ターン ・パラレル・ターン
上級 Dグループ	・パラレル・ターン・ウェーデル ン・発展技術	・パラレル・ターン ・ウェーデルン

III 選択実技種目とその内容

バレーボール(前期),バスケット・ボール(後期),羽球,卓球,ソフトボール(前期)の5種目である。なお、人員等の関係で選択種目の変更をさせることもありうる。また、雨天の場合には体育館内で実施可能な種目に限定される。

IV 必須実技種目理論

必須実技種目については各々講分の講義をする予定であるが、その内容、日時に関してはおって通知する。

◆トレーニング・体操(器械運動)基礎理論

助教授 田野 有 一

・トレーニング
今日では「トレーニング」とか「練習」とかいった言葉は実に曖昧、無雑作に用いられ、逆にいえば、それだけ便利な言葉であるといえないこともない。本論では、これらの言葉の意味するものからくりを、体力づくりの必要性とその要素を分析することからはじめ、以下、スポーツと科学、トレーニングと科学、年齢とトレーニング、競技力と体力、筋力・持久力のトレーニング、スピード・パワーのトレーニング…等の基礎知識を得ることによって、「トレーニングの種類とその方法」を探ろうとするものである。

・体操(器械運動)

器械運動の種目中、とくに実技でとりあげられているマット運動、跳び箱(跳馬),トランポリンの3種目についての運動特性と運動系列,課題の解説と実施上のポイント,補助法…等についての基礎理論を学ぶ。

なお、実技課題[compulsory]はこの時間に図解入りのプリントをもって通知する。

◆水泳基礎理論

教授 杉 山 登

- 1 水泳の社会的背景
- 2 水泳の基礎的技術要因
- 3 競泳の技術的要因
- 4 基本的泳法
- 5 水泳の安全管理

<注>この講義は6月下旬に行なう予定であるが、おって掲示により通知する。

◆スキー基礎理論

教授 藤 江 正

- 1 スキー概説
- 2 スキーの技術的要因
- 3 スキー技術の組み立て
- 4 スキーの操作と身体の使い方
- 5 スキーの安全管理

体 育 講 義

教授 森 岡 知 一

青年期の意義について考え、成年期へのステップたる青年期における、精神、身体の質的・量的発展・発達経過をみて、人間を科学的にみる基礎的概念を確立してゆきたい。但し、特別のテキストは使用しない。

- A — 前期受講 学生番号 1~200
 - B — 後期受講 学生番号 201以降の者
- } 各学年共通

4 基礎教育科目

経済学概論 A・B

A・Bへの所属区分については、次のように決定した。

A……学生番号81001～81192の者。

B……学生番号81193以降の者。

なお、2年目以降の学生はA・Bいずれを選んでもよい。履修届の際、A・Bを間違えると試験が受けられなくなるから注意すること。

A

非常勤講師 加藤 睦 洋
(小樽商科大学短期大学部講師)

初等経済学の理論を講義します。教科書は、P.A.サムエルソン著、都留重人訳『経済学』上、下両巻、岩波書店刊を使います。

夏休み迄に、10、11、12、13、14、18、19の各章を講義し、試験を行います。この試験に不合格となった諸君には単位を認定しませんので、しっかり復習するよう心がけて下さい。

夏休み終了後の講義では2、3、4、20、22、23、24、25、26、27、32の各章を取り上げます。後期試験は、前期試験の合格者に対してのみ行ないます。

講義は、教科書の範囲内でしかも教科書に忠実に、かつできるだけ分かり易いことを旨として行なうつもりです。しっかり勉強して下さい。

B

助教授 鶴 沢 秀

この科目は、学生番号81193以降の1年次生と、選択を希望する2年次生以上の学生に対して開かれるものである。

テキストは、Paul A. Samuelson, *Economics* (11版)(好学社のリプリント版)または、都留重人訳『サムエルソン経済学』(岩波書店)を用いる。

講義は、テキスト以外の材料を使用したりすることもある。また、経済学の基礎的知識や経済学的思考方法に十分なじんでもらうために、グラフや式を用いることが多くなる予定(高校の数学を理解していれば、ほとんど理解できるから心配する必要はない)。しかし、新しい概念を明確に理解し、使用

できるようになるためには(これが単位を修得することの一部を形成する)各自の十分な自学自習が必要となり、これが要求されている。

講義の主な項目は、

1. 経済循環と経済主体
2. 完全競争下の企業行動の理論
3. 完全競争下の家計行動の理論
4. 市場均衡
5. 独占企業の行動
6. 国民所得勘定と政府活動
7. 単純な乗数理論による均衡国民所得決定
8. IS-LM分析による均衡国民所得と均衡利子率の決定
9. 財政政策と金融政策

参考文献は、講義中に指示する。

商学概論

(前期) 教授 山下 隆 弘

社会的流通機構について、基礎的概念の研究を出発点として流通システムの理解を深めたい。そして、その上にたって、それを肉づけるために、今日的流通問題の幾つかについて考察を加える。

- (1) 流通システムの出発的理解
- (2) 基礎概念
 - (i) 交換モデル
 - (ii) 欲求理解
 - (iii) 人間及び組織モデル
- (3) 小売市場システム論
- (4) 卸売市場システム論
- (5) 消費者問題

[講義方法] テキストを使用せず、ノート講義をする。参考図書は適時指示するが、必須的なものとして、鈴木・田村著「商業論」有斐閣。がある。

商学概論

(後期) 教授 久野 光 朗

最初の授業でガイダンスを行ない、参考書の紹介などもいたしますが、教養としての会計——会計学を講述したいと思っております。講義内容は、おおむね

次のようになります。

- I 会計情報の利用者と会計情報
- II 会計情報の提供者と会計情報
- III 会計情報の提供者と経済事象

参考書：

- 青木茂男『会計学総論』（中央経済社，1978）
- 染谷恭次郎『会計学』（中央経済社，1978）
- 高田正淳編『会計学総論』（有斐閣，近刊）
- 神戸大学会計学研究室編『会計学辞典』（同文館，1976）

法学概論

（前期）講師 振津 隆 行

法的にもの考えるとは一体どういうことか、といった視点から、法学上の基礎的な概念や用語を、具体的な事例——主に判例——の検討を中心として講述することにしたい。その際、前期では専ら、公法的領域（たとえば、法とは何か、法の適用、法の体系、ことに国家と法、犯罪と法など）が取り扱われることになる。

テキスト：中川善之助編『判例による法学入門』（青林書院新社）

法学概論

（後期）講師 和田 健 夫

基礎的な法制度、法概念に関する前期の講義を土台にして後期ではもう少し具体的な講義にはいる。つまりここでは、我々の市民生活に関わる様々な法制度をとりあげて、それらがどのようなものであるのか、いかなる機能を果たしているのかについてお話しする。前期と同様に実際の事例を用いて説明する。主として取り扱われる素材は、いわゆる私法（社会における人と人との間の法律関係を規律する法）の領域に属するものである。

現在の資本主義社会は、市民社会に対する国家（行政）の介入の増大ということによって特徴づけられるが、後期ではさらに、このような市民社会と行政とを結びつける多くの法制度についてもその機能を中心に講義する。

テキストは前期と同じ。参考文献はそのつど紹介する。

管理科学概論

（前期）教授 山 田 一 生

（後期）教授 沼 田 久

この講義の目的の1つは、学生諸君に管理科学についての正しいイメージを抱いてもらうことである。

前期：I. マネジメントと情報システム

II. 経営意思決定の過程

III. マネジメント・シミュレーションの発展とデータ・ベース

IV. 情報システムの設計用具としての管理科学

V. 組織変革と情報システム

VI. 意思決定支援システムへの模索

後期：管理科学のなかの大きな分野としてのオペレーションズ・リサーチについて、その簡単な歴史、考え方などを述べ、ネットワーク理論、動的計画法、意思決定理論、ゲームの理論、スケジューリング理論、輸送問題、経済性分析などについて概説する。

参考文献：必要に応じて講義中に指示する。

数 学

S 21, S 23 助教授 白 川 寛

S 22, S 31 助教授 兼 岩 龍 二

(1) クラス編成

1年生（81年度入学生）は、次のクラス分けに従って下さい。

A. S 21, S 22, S 23……数学Ⅲを履修していない学生が受講。

クラス	学 生 番 号
S 21	81001 ~ 81128
S 22	81129 ~ 81256
S 23	81257 ~

B. S 31……数学Ⅲを履修済みの学生が受講。

(2) 講義内容

S 21, S 23 白 川 寛

1変数の微積分法と多変数の微分法（偏微分法とよぶ）の講義と演習を行います。

前期：高校数学Ⅲの微積分法 教科書 新訂数学Ⅲ 東京書籍 小平邦彦

編。

I 章 数列の極限 II 章 微分法とその応用

III 章 積分法とその応用

やさしい問題を対象に、演習中心で行ないます。なお余裕があれば

IV 章の確率も含めます。

後期：偏微分法 教科書 数学概論 2 春秋社 数学基本講座 鍋谷・大

成著 XIII 章 偏微分

あてられた演習は、必ず行なうこと、成績評価の際考慮します。

S22, S31 兼 岩 龍 二

クラス S22, 学生番号 81129 ~ 81256 の者で高等学校で数学Ⅲを履修して

いない者はこのクラスに属す。講義内容は主に微分積分法（偏微分法を含む）

で、テキストは指定しない。必要な時はプリントを配布する。

クラス S31, 学生番号 81001 以降の者、即ちすべての新入生のうちで高等

学校の数学Ⅲを履修してある者はこのクラスに属す。講義内容は微分積分法

でテキストは下記のとおり。

鍋谷清治・大成節夫著 数学概論 2 春秋社

5 専門教育科目

統 計 学

助教授 遠 藤 薫

講義内容

第1部 記述統計

第2部 推測統計

教科書

森田優三『新統計概論』日本評論社

参考書

森田優三・久次智雄『演習統計概論』日本評論社

数 理 統 計 学

教授 久 次 智 雄

講義内容

1. 確率変数（補論）

2. 多次元の確立変数

3. 標本抽出

4. 正規母集団からの標本分布

5. 分散分析

6. 線形代数（補論）

7. 多変数正規分布

8. 推定論・検定論の基礎

9. 回帰分析の基礎

10. ベイズ的推論

主要参考書（各自入手しておくこと）

岩田暁一『経済分析のための統計的方法』（東洋経済新報社）

その他

1. 「統計学」, 「数学」および「応用数学(代数)」はすでに履修済みであるとして講義を進める。

2. 当初は、2年次のときの「統計学」のテキスト、森田優三著『新統計概論』を持参すること。

経済原論 I

(前期) 非常勤講師 加 藤 睦 洋

(小樽商科大学短期大学部講師)

経済成長論の初歩的な理論を講義します。教科書は、R. G. D. アレン著、新開陽一、渡部経彦訳『現代経済学—マクロ分析の理論—』, 上下両巻, 東洋経済新報社刊を使います。実際に講義するのは、3, 10, 11, 12, 13, 14,

15, 16, の各章の予定ですが、講義回数の制約上臨機応変に省略して進む可能性が大きいと思われる。使用する数学は高校程度ですが、成長理論は元来技術的性格の強い分野で、このことはそれほど経済学に詳しくなくとも理解し易いという側面を持つと同時に、半面自分で計算をフォローしてみる習慣をつけないと身についた実力にならないという側面を持っています。それで講義では計算力をつけることに相当の重点を置きますが、受講学生諸君も計算の復習、更にできれば章末の練習問題の演習に精を出されんことを望みます。

経済原論 I

(後期) 教授 藤井栄一

[後期] 価値論から始め、できれば、マクロ理論の冒頭部分までカバーする予定。pre-reguisite はないが、経済と経済学について知識の幅が広く、大学での勉強の仕方について安易な印象を持っていないことが望ましい。

参考文献: Friedman, *Price Theory* 及び Keynes, *General Theory*, それ以外に若干を講義で指示する。

経済変動論

教授 増井幸夫

インフレ、失業、スタグフレーション、エネルギー問題を克服し、「最大の雇用、生産、購買力」を確保するにはどうすればよいか、政府はなにをなするか、景気変動はなぜ起こるか、景気変動は資本主義経済の宿命的病患か、大不況は再来するか、各個別経済主体にとり長期的展望の開けた経済計画が立てられるような安定的マクロ経済的基礎を提供するにはどうすればよいか、を最近のマクロ経済学の研究成果を総動員して系統的に論じる。

講義題目

1. マクロ経済分析の基礎
マクロ経済の諸問題、分かり易い分析法、ケインジアン-マネタリスト論争、マクロ経済変数の測定
2. マクロ経済の長期均衡
所得、物価水準の決定メカニズム、恒常成長モデル
3. マクロ経済ショックに対する動学的調整過程
マクロ経済ショックの諸類型、動学的ケンブリッジ方程式、予想を含む調整動学、名目所得、実質所得、物価水準の循環的調整、利子率の循環的

調整、貨幣のショック・アブソーバー機能、アンダーシューティング、オーバーシューティング

4. ケインジアン・モデルとマネタリスト・モデル

基礎的諸仮定、消費関数、投資関数、貨幣需要関数、総供給関数、労働市場の機能、期待形成、経済の自己回復力

5. 経済安定政策

インフレ問題の性格、失業率の決定要因、期待インフレとフィリップス曲線のシフト、スタグフレーションのメカニズム、マクロ経済目標、安定化戦略の基礎、財政政策の有効性、貨幣政策の有効性、政策効果論争
テキスト

M. R. ダービー『中級マクロ経済学』マグローヒル好学社

経済学史

助教授 野沢敏治

イギリス古典経済学——アダム・スミス『国富論』に焦点をあてて講義する。18世紀のイギリスは国内的にも国際的にも危機のなかにあり、スミスは、ヨーロッパ史を人類史的構想において反省しなおす。そして国民経済の平和的で自立的な形成の方途を探究する。その努力の結晶が『国富論』である。

- I. スミスをどう受けとめるか。
- II. 時代の問題、植民地・世界市場と憲法論争。
- III. 『国富論』にいたるまでのスミスの学問的生涯。
- IV. 『国富論』体系の構造。

参考書

内田義彦、作品としての社会科学、岩波書店、1981年

平田清明、経済科学の創造、岩波書店、1965年

水田 洋、アダム・スミス研究、未来社、1968年

E・ウィリアムズ、コロンブスからカストロまで (I・II)、岩波書店
1978年

中野好之、評伝・パーク——アメリカ独立戦争の時代、みすず書房
1977年

『国富論』は邦訳が各種でている。どれでもよいから入手しておくのが望ましい。

経済原論 II

非常勤講師 花田 功一
(小樽商科大学短期大学部講師)

『資本論』の内容をできるだけ平易に解説していきます。

- I 経済学の対象と方法
- II 資本の生産過程
- III 資本の流過程
- IV 資本主義的生産の総過程

テキスト：マルクス『資本論』

参考文献：『新マルクス経済学講座』有斐閣
『マルクス《資本論》の研究上下』新日本出版社

計量経済学

助教授 遠藤 薫

講義内容

- 1. 経済モデル・データ・確率モデル
- 2. 単一方程式モデル
- 3. 同時方程式モデル
- 4. ベイズ接近

参考書

講義中に指示します。

経済史概論

教授 井上 巽

講義内容は、I イギリス産業革命史論〔前期〕、II 19世紀イギリス自由主義経済政策史論〔後期〕となる予定です。本年度はやや専門的なテーマとなりますので、西洋経済史全般に関する講義内容を希望する方は、明年（昭和57年）度の経済史概論を受講して下さい。なお、講義内容の詳細は、本年度講義時間の冒頭にお知らせできる予定です。

本年度は特殊テーマのため、テキストおよび参考文献は当面指定せず、講義中必要に応じて指示する予定です。小生の講義ノートを中心に論述しますので、何よりも講義に出席することが大切です。

日本経済史

助教授 長谷川 伸三

日本資本主義発達史（幕藩体制の解体～国家独占資本主義の確立）

本年は日本近代経済史、すなわち天保改革前後に始まる封建的危機、開国・維新変革と本源的蓄積過程、産業革命と寄生地主制の確立、帝国主義段階への突入と日露戦争、第1次世界大戦と独占資本主義の形成、金融・昭和恐慌と国家独占資本主義の確立までを講義する予定。

前期ではレポート提出、後期ではテストを行なうほか、適宜中間レポートの提出を求める。それぞれの課題を所定の期日までに提出し、合格した者のみを評価するので、出席と自主的な学習ができない者は遠慮されたい。

テキスト：後藤靖・佐々木隆爾・藤井松一著『日本資本主義発達史』有斐閣双書、1979年刊。

主要参考文献：山田盛太郎著『日本資本主義分析』岩波文庫。楫西光速他著『日本資本主義の成立』全2冊・『日本資本主義の発展』全3冊、東大出版会。大江志乃夫著『日本の産業革命』岩波書店。石井寛治著『日本経済史』東大出版会。岩波講座『日本歴史』近世5、近代1～6、岩波書店。安藤良雄編『近代日本経済史要覧』東大出版会。

経済政策

非常勤講師 福岡 武二

農業経済学

非常勤講師 崎浦 誠治
(北海道大学教授)

農業経済学の教科書を用いて講義を行なう。講義内容は次のとおりである。

1. 農業経済学の領域・課題および方法
2. 経済成長と農業
3. 農業経営
4. 農業生産組織と地域農業
5. 食糧需給と市場メカニズム
6. 農業に対する公共政策
7. 農産物の国際貿易と世界の食糧問題

(補論)

1. 労働力の産業間移動と相対的要素報酬
2. 土地制度と農場効率

テキスト

崎浦誠治・田辺良則共編著「農業経済学概論」養賢堂

参考文献

秋野正勝ほか4氏共著「現代農業経済学」東大出版会

土屋圭造著「日本農業経済論」日本評論社

社会政策

教授 吉武清彦

第I篇 社会政策史

第II篇 社会政策と労働経済学

第III篇 社会政策各論

文献

大河内一男 『社会政策』(総論・各論計2冊)有斐閣

隅谷三喜男 『労働経済論』筑摩書房

隅谷三喜男 『労働経済論』日本評論社

各論における個別的文献は授業時間の始めに紹介する。

財政学

教授 早見 弘

昭和56年度は次の順序で講義する予定である。

序章 財政と財政学の系譜

第1章 日本財政の長期分析

1 日本における政府の役割と財政

2 財政規模の長期趨勢

3 政府活動と経費構成

第2章 予算政策の目標

1 予算政策の目標

2 予算政策の政府間分担

第3章 公共財の理論と集合的選択

第4章 租税の規範理論

1 租税論の課題

2 利益税

3 能力税

第5章 租税の実証理論

1 課税の中立性

2 租税の転嫁と帰着

第6章 経済安定と財政政策

1 財政政策

2 公債と国債管理

参考書：早見 弘著『財政学』(同文館出版、昭和55年)、

その他講義中に指示する文献

国際経済論

助教授 佐竹正夫

本年度は、国際貿易を中心とする国際経済学の実物的な側面に主に焦点をあてたい。また、昨年度触れることの出来なかった貿易と経済発展、経済統合、直接投資等の問題を取りあげる予定である。

講義の概要

I. 国際貿易の理論

1. 貿易利益

2. 貿易パターンの決定因

3. 経済成長と貿易

4. 貿易と経済発展

II. 貿易政策の理論

5. 関税の効果

6. 保護貿易主義

7. 経済統合の理論

III. 生産要素の国際的移動

8. 直接投資

参考文献その他は、その都度指示する。

貿易政策

教授 麻田 四郎

戦後の世界経済体制（ブレトン・ウッズ体制）は発足後30年を経過して、現在大きな転換期に直面している。講義ではこの30年を回顧し、そのなかからわが国の国際経済政策への指針を探したい。

- (1) 前史：両大戦間の世界経済
- (2) IMF体制の30年
- (3) GATT体制の30年
- (4) 南北問題の展開

昨年度は(1)、(2)を取り上げるに止まったが、本年度は(2)～(4)に力点を置きたい。「国際経済論」を必ず履修しておくこと。参考書は講義のなかで随時指摘する。

国際金融論

教授 足立 禎

1. 新IMF体制と国際通貨制度
2. 外国為替の基礎理論
3. 先物為替の理論と実際
4. 持高の理論と為替操作
5. 中央銀行の為替操作と市場介入
6. 金問題とSDRの将来
7. 国際金融市場の新動向

重要参考文献

E.ゾーメン「屈伸為替相場制度」足立禎訳 勁草書房
足立 禎著「外国為替市場」 日経新書 No.188

金融経済論

非常勤講師 釜江 廣志
(山口大学助教授)

1. 家計・企業の金融行動
2. 貨幣の需要・供給
3. 金融機関
4. 金融政策

テキスト：牛島正・林敏彦（編）「マクロ経済学の基礎」有斐閣双書

参考書：鈴木淑夫「現代日本金融論」東洋経済新報社
岩田一政・浜田宏一「金融政策と銀行行動」東洋経済新報社

流通組織論

非常勤講師 片桐 誠士
(小樽商科大学短期大学部教授)

流通組織の問題は、古くて新しい問題ではあるが、その体系確立は必ずしも明確とはいえず、未だしの観がある。

本年度の講義では、流通組織の問題性を明確にし、それがいかなる歴史的展開をみせて今日に至っているかを理論的・体系的にあとづけてみることにする。

1. 流通論の対象と方法
2. 交換・商品流通の歴史的展開
3. 資本制商品流通の特質
4. 現代の流通組織

参考文献：白髭 武著「現代マーケティング論」日本評論社

鈴木 武著「商業と市場の基礎理論」ミネルヴァ書房

森下二次也監修「商業の経済理論」ミネルヴァ書房

マーケティング

教授 山下 隆弘

マネジュリアル・マーケティングについてのシステム接近による理論展開をする。そして、それは、単に概念的レベルを超えて、実証的検証可能という意味においてオペレイショナルティを備えたものである。そして、今年の講義はその様なモデルの構築方法に力点を置いたものとする。下記使用テキストの目次は以下の如くである。

- 序章 問題意識と概括
- 一章 伝統的理論の概括とその問題点
- 二章 オーダーソン理論と志向するシステム論
- 三章 基礎概念とシステムの概念的的理解
- 四章 マーケティング・システムの予備的描写
- 五章 消費者行動モデル
- 六章 小売店行動モデル
- 七章 中間業者モデル及び販売員行動モデル
- 八章 生産者意思決定とマーケティング情報システム

使用テキスト：山下隆弘著「マーケティング経営システム論」白桃書房

参考図書：アムスタッツ著・山下隆弘訳「マーケティングの計量モデル」
新評論社

大沢豊著「マーケティング科学と意思決定」中央経済社

浜崎宏著「マーケティング戦略とORモデル」日科技連

国際マーケティング

講師 森田 憲

本年度は国際経済および社会が現在抱えている調整機構に関する諸問題を取り上げることとする。

具体的には為替レート，一次産品取引，および要素移動としての直接投資を考える予定である。

＜参考文献＞ 雑誌論文が中心となるが強い文献をあげれば，

J. A. Frenkel and H. G. Johnson, (ed.)

The Economics of Exchange Rates, Addison-Wesley, 1978.

A. D. Law

International Commodity Agreements, Lexington Books, 1975.

小島 清

『海外直接投資論』ダイヤモンド社，1977年

等である。

商業英語

非常勤講師 北村 正司

(小樽女子短期大学教授)

外国貿易の流れを体系的に展開し，貿易実務と英語商業通信文を統一的に講述し，実務に関する基礎的な知識の修得と商業英語の読解力および表現力の養成をはかりたい。

1. 英語商業通信文の構成と形式
2. 取引関係の樹立
3. 売買契約の成立
4. 売買契約の履行
5. 電報とテレックス

また商業英語の活用に必要な英文法の知識と感覚を養いたい。

テキスト：

中村新吾「模範貿易英語」東洋経済新報社

証券市場論

助教授 石原 定和

序，証券市場論とは何か。

第1章 資本主義と有価証券

第2章 証券の流通

第3章 証券の価格

第4章 証券市場と金融市場

第5章 証券市場発展の歴史

参考文献：川合一郎『株式価格形成の理論』日本評論社

伊牟田その他『証券経済論』有斐閣

小野二郎『証券価格論』同文館

証券金融論

教授 鈴木 満直

国際金融と国内金融の接点を講義したあと，わが国のマネー・フロー表にもとづき，わが国を中心として，国内金融市場を構成する貨幣市場および証券市場の役割りおよび位置づけを解説し，最後に，証券市場を機能の観点から分析する予定である。

テキスト：

拙著『ポートフォリオ理論と資本市場の機能』勁草書房（昭和52年）

経済学原理

助教授 篠崎 恒夫

I 本科目の意義

本科目は，現代企業経営の運動法則を客観的に解明することを目的とする学問である。したがって，いかに企業を経営するかというハウトゥの伝授は直接的内容とはならないので，かかる期待は無用である。講義では，経営を資本運動の側面から捉え，かかる本質と経営の現象との関りを，資本運動と人，組織と個人などの問題に即して解明しようとする。

II 本科目の位置づけ

本科目は，今日，独立の学問としての存在を示しているが，その昔，経済学から分化したものであるから，経済学の基礎概念を多分に用いることが多い。また，経営現象の解明のためには，多くの隣接科学とのインターディシプリナリィな関りを併せ持つ。その為受講者は，かかる隣接科学の知識の

知識を確固たらしめて講義に臨むことが要求される。一方、本科目は、商業学科系の基礎的・必須的地位を占めることも留意されたい。

Ⅲ 講義内容

- 第1講 経営学の本質と課題
- 第2講 ドイツ経営学の生成
- 第3講 経営管理論の展開
- 第4講 官僚制論
- 第5講 企業形態の展開
- 第6講 経営者論
- 第7講 人間関係論
- 第8講 意思決定論

Ⅳ 参考書

馬場克三著「経営経済学」税務経理協会

川崎ほか編「現代資本主義と経営学説」ミネルヴァ書房

その他、年度当初に各講に関連する参考書リストを配布し、講義中にも指摘することがある。

Ⅴ 本年度の方針

昨年度は、実験的に方法論に重点を置いてみた。今年度は、若干のバランス修正を行うが、基本的には変りはないものと承知されたい。なお、卒業予定年次生には、毎時間質問するなど出来るだけの指導を行う。

企業形態論

非常勤講師 小田 福 男
(小樽商科大学短期大学部講師)

講義内容

序、企業形態論の概観

- 1. 個人企業、合名会社、合資会社
- 2. 株式会社
- 3. 企業結合諸形態、多国籍企業
- 4. 資本主義公企業、協同組合企業
- 5. 社会主義企業

なお、特に株式会社形態を重点的に講義する予定です。

準テキスト：大島国雄著『企業形態論』同文館、1976年。

参考文献：その都度指示する。

経営史

助教授 辻 原 悟

講義の内容は以下の通りとする予定。

アメリカの企業経営の史的展開を今年度は特に1880年代以降今日まで跡付けるつもりです。

教科書の指定はしませんが、A. D. チャンドラー、鳥羽欽一郎・小林袈裟治訳『経営者の時代(上)(下)』東洋経済新報社、昭和55年が参考になるでしょう。

例年、単位取得時期になると、あわてる学生諸君がいますが、そういう人は努力が必要であるということをよく心得ておいて下さい。

経営管理論

(前半) 非常勤講師 鶴 野 好 文
(北海学園大学講師)

(後半) 助教授 林 伸 二

経営管理とは経営組織の形成・維持・発展を究極の目的とする。したがって経営組織についての認識がなければ経営管理を識ることはできない。本年の講義は前半を鶴野、後半を林が担当する。

講義内容

I 序論

II 組織理論

A ウェーバーの官僚制理論

B 逆機能論

C コンティンジェンシー理論ならびにその批判的検討

III 企業の理論——企業の目的と戦略——

IV 古典的経営管理論

A フェイヨールの管理論

B 科学的管理法

V 人間関係論

A 初期人間関係論

B 後期人間関係論

VI 新しい経営管理——仕事と人間の統合的管理——

労務管理論

助教授 林 啓 伸 二

労務管理上の諸問題を最新の理論に基づいて説明・解明していきたい。

テキスト：W. L. French, The Personnel Management Process, 4th ed.,
Houghton Mifflin co. 1978

参考文献：問題の性質によって異なるが、たとえば
J. K. Fordyce & R. Weil, Managing with People, 2nd ed.,
1979

K. Legge & E. Mumford (ed.), Designing Organisations
for Satisfaction and Efficiency, 1978

R. M. Steers & L. W. Porter, Motivation and Work
Behavior, 1979

H. Matthofer, Humanisierung der Arbeit and Produktivitat
in der Industriegesellschaft, 1977

財務管理論

非常勤講師 佐賀 卓 雄
(小樽商科大学短期大学部助教授)

I 講義内容

企業財務論が学問的体系を整えてくるのは株式会社金融が全面的に開発した今世紀初頭第1次企業合同運動期の米国においてであるが、その後会社金融論——管理論的財務調——規範的財務論と発展をとげ今日にいたっている。このような企業財務論の展開は、一方では株式会社の構造変化によって、他方では理論自体の継承・発展という内的展開によっても規定されている。そこで、本講義では最高度に発展した企業形態（＝信用を介した資本集中体）といわれる株式会社の基礎構造の分析を軸に、現代株式会社の構造変化（いわゆる「所有と経営の分離」）によってもたらされた企業目的の変質という議論を意議しながら、企業経営全体の中に占める財務職能の位置づけを行う。それにもとづいて50年代以降の規範的財務論の性格規定を行ってみたい。講義編成は次のようになる予定である。

序 論

1. 株式会社の基礎構造
2. 企業財務論の史的展開

本 論

3. 財務職能論
1. 資本調達論
2. 資本予算論
3. 資本コスト論
4. 配当政策論
5. 現代株式会社の構造と財務管理目的
(補), 日米企業の財務構造比較

II テキスト

高橋昭三著「現代経営財務」税務経理協会, 昭和55年, を使用する予定であるが、講義内容は必ずしもテキストに忠実ではない。

III 参考書

本年度は「株式会社論」に比較的多くの時間を費す予定なので、さしあたり次のものをあげておく。

R. ヒルファディング「金融資本論」岩波文庫(上), (とくに第7章)

A. A. バーリ& G. C. ミーンズ「近代株式会社と私有財産」文雅堂

富山康吉著「現代資本主義と法の理論」法律文化社

大塚久雄著「株式会社発生史論」著作集第1巻, 岩波書店

川合一郎著「株式価格形成の理論」日本評論社

規範的財務論の体系およびそれとの関連で最近の証券市場分析の発展については次のものを参照すること。

J. F. ウェストン「企業財務論の方法」東洋経済新報社

E. ソロモン「財務管理論」同文館

柴川林也著「財務管理」同文館

諸井勝之助著「経営財務講義」東京大学出版会

E. F. ファマ「証券市場分析の基礎」日本証券経済研究所訳

簿 記 学

(A) 助教授 中 善 宏

(B) 非常勤講師 渡 辺 和 夫

(小樽商科大学短期大学部助教授)

(1) クラス編成

次のとおり、受講者を学生番号によってA・B2クラスに分ける。

2・3年次：001～200はA，201以降はB。

4年次以上：001～130はA，131以降はB。

(2) 講義内容そのほか

授業は、「企業の言語 (Language of business)」といわれる会計の基礎になる複式簿記の原理，記帳手続，帳簿組織，決算整理などを理解してもらうことを目的にすすめる。なお，簿記学はひとつの体系であるから，全体を理解していなければ意味がない。したがって受講者は一年を通じて地道な努力を要求される点，銘記されたい。

また簿記学は他の会計関係科目の基礎になることを付け加えておく。

(3) テキスト

沼田嘉穂『簿記教科書 (10訂版)』(同文館，昭和53年)および『簿記教科書 (10訂版) 記帳練習帳』。

(4) 参考書

片野一郎『簿記精鋭 (上・下)』(内文館)，沼田嘉穂『完全簿記教程 (I・II・III)』(中央経済社)および『帳簿組織』(中央経済社)，井上達雄『例解会計簿記精義』(白桃書房)，飯野・染谷編著『明解簿記—3級 (商業簿記)』および『同一2級 (商業簿記)』(ともに国元書房)。

なお，簿記の内容や理論は会計学に負うところが大きいので，つぎのような基礎的な会計学のテキストを読んでおくと，簿記の内容を深く理解し，また興味をもって学ぶのに役立つ。

阪本安一『基礎会計学』(中央経済社)，染谷恭次郎『会計学』(中央経済社) 飯野利夫編『現代会計学入門』(有斐閣)。

会 計 学 教授 久野光朗

最初の授業でガイダンスを行ない，参考書の紹介などもいたしますが，授業内容を大別すれば次のとおりです。

§ 1 総論

§ 2 測定論

収 益，費 用，資 産，負 債，資 本

§ 3 伝達論

§ 4 各論

テキスト：

太田・飯野，『会計学』(千倉書房，1976)

参考書 — 現在入手可能な標準的参考書：

黒沢 清，『近代会計学』(春秋社)

山下勝治，『会計学一般理論』(中央経済社)

飯野利夫，『財務会計論』(同文館)

青柳文司，『会計学の原理』(中央経済社)

黒沢 清，(主編)，『近代会計学大系』第1巻～第5巻，第10巻

(中央経済社)

神戸大学会計学研究室編，『会計学辞典』(同文館)

原 価 計 算 講 師 福 島 吉 春

1. テキスト：

溝口一雄『最新原価計算講義』(中央経済社，1979) — 同書は資格試験の一般的自習書として版を重ねてきた，下記参考文献④の教科書版であり，したがって両書の内容はほぼ同一である。

2. 講義内容：

(1) 原価計算の基礎的諸概念

(2) 実際原価計算

(3) 標準原価計算

(4) 直接原価計算

授業は以上の項目について，テキストの順序に沿ってすすめるが，計算技術ばかりではなく，その基盤となっている管理思考や，同書では省略されている歴史的発展過程ならびに記帳方法 (工業簿記) も理解してもらう。

3. 参考文献：

(1) 同書を理解するための基礎文献 — ①溝口一雄『例解工業簿記』(中央経済社)，②『原価計算の学び方・考え方 (会計人コース別冊)』(中央経済社)，③問題集としては，飯野・染谷編『明解簿記 (1級工業簿記・原価計算)』(国元書房)。

(2) 理解を深めるための参考文献 — ④溝口一雄『最新例解原価計算』(中央経済社)，⑤岡本清『原価計算 (三訂版)』(国元書房)，⑥松本雅男『原価計算』(国元書房)。

外国語特殊講義

フルブライト法による招聘教授

タイラコウジ外国人教師
(イリノイ大学教授)

財産法 I

(前期) 助教授 飯塚 和之

(後期) 教授 神田 孝夫

民法は、私法の基本法であり、民法学で用いられる諸法概念・法原則は、他の法律学の基礎をなしている。民法学を大きく分けると、財産法と家族法に分けることができるが、本学では、財産法 I・II において前者の領域をカバーしている。本年度の財産法 I は、前期(総則)を飯塚、後期(物権・担保物権)を神田が担当する。

テキスト：我妻栄・有泉亨著「民法1 総則・物権法」一粒社

教材：好美清光編「基本判例双書・民法(総則・物権)」同文館

なお、『六法』は必携のこと(どこの出版社のものでもよい)。

財産法 II

教授 神田 孝夫

債権法を対象とするが、不法行為の部分は環境法の講義であつかわれるので除かれる。したがって、債権法総論・契約法総論・契約法各論が対象となる。

テキスト：我妻栄・有泉亨「民法2 債権法」一粒社

参考書は講義のときに紹介する。

会社法

助教授 青竹 正一

わが国の企業のほとんどは共同企業の典型的形態である会社組織をもって経営されており、現代の資本主義経済は会社とりわけ株式会社制度とはなれては考えられないといってよい。会社法は、このような会社組織の成立から

消滅に至る諸段階における利害関係人の利益調整を行なうことを主たる目的としている。講義は、かかる目的を肥握したうえ、会社法が現実の企業活動においてどのように機能しているかを知ってもらうために、できるかぎり判例などの具体的素材を提起しながら進めることにする。また、会社法は現在その一部改正作業が進められ、近く国会通過が予定されているので、これらについてもできるかぎり触れることにする。

教科書：上柳・北沢・鴻・竹内編『会社法 I・II』有斐閣

参考書：ジュリスト別冊『会社判例百選(第三版)』有斐閣

商取引法

助教授 石原 全

商取引法の範囲は非常に複雑多岐にわたり、かつ、生ける法としての約款が普及している。これらを詳細に講義するのは至難なので、本年度は現行商法典の商法総則及び商行為編を中心として講述します。一応のプランとしては、商法の対象、商人概念、商号、商業登記、企業の補助者、商行為に関する特殊な規定、代理・仲立・取次業(代理商、仲立業、問屋業)、運送業、寄託等を中心として講述し、随時約款についても触れる。教科書は使用しませんが、参考文献を若干掲げておきます。

上柳等編：商法総則・商行為法(商法講義(1))有斐閣

石井・鴻：商法総則、同・商行為法(上)(下)(いずれも勁草書房)

大隅：商法総則(新版)(法律学全集)有斐閣、同：商行為法(青林書房新社)

西原：商行為法(法律学全集)有斐閣

神崎：商行為法 I (有斐閣大学双書)

商法(総則・商行為)判例百選(別冊ジュリスト No.49)

憲法

助教授 結城 洋一郎

「憲法」という法形式が成立する歴史的な過程と意義を学び、わが国の憲法については、基本的人権を中心に具体的な裁判例を参照しながら講義を行う。但し、55年度「法学概論」(前期)で扱った問題は重複しては扱わない。

講義内容

I 序論—憲法とは何か

II 日本の憲法

- (1) 明治憲法の特徴
- (2) 国民主権と象徴天皇制
- (3) 平和主義
- (4) 基本的人権
- (5) 「日本国憲法」第四章以下の主要問題

テキスト：清宮四郎『憲法Ⅰ（第3版）』有斐閣

宮沢俊義『憲法Ⅱ（新版）』有斐閣

参考書：阿部照哉他『基本的人権の歴史』有斐閣

『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（別冊ジュリスト）

『憲法の争点』（ジュリスト増刊）

その他の参考書については講義の中で紹介する。

行政法

非常勤講師 秋山義昭

（小樽商科大学短期大学部助教授）

現代国家における国家機能の変遷に伴い、行政府の役割りは積極化し、その作用も複雑となった。それだけに、行政活動も国民の日常生活と密接に関わりあってきている。このような状態においては行政目的を達成すると同時に、行政府の活動をコントロールする法的なシステムが必要である。行政法は、歴史的もこのような機能を担うものとして登場してきた。

講義では、行政法の持つこのような統制機能に着眼し、その体系的構造を知るとともに、具体的なケースを通して現実に果たしている役割りを理解することに努める。

なお、受講生は、憲法、民法の履修を終えていることが望ましい。

テキスト：秋山ほか「教材行政法判例」（北大図書刊行会）

労働法

助教授 道幸哲也

雇用関係から生ずる法的紛争をいかに解決すべきかを、主に裁判例を素材にして講義します。講義は、問題状況の説明、法的論点・裁判例の解説、討論との順序でおこなう予定でいます。最近、論点が多様かつ複雑化しているので重要な争点を中心に検討します。問題の十分な理解のためには討論が不可欠と思われるので、今年は特にこの側面にウェイトを置く予定でいます。その意味では出席者は自らの見解を展開することが義務づけられます。

講義内容は概略以下のとおり。

1. 社会法の成立

2. 個別的労働法

- ① 労基法総論
- ② 労働契約論
- ③ 就業規則論
- ④ 賃金
- ⑤ 労働時間・休日・休暇
- ⑥ 解雇・懲解
- ⑦ 労災
- ⑧ 女子・年少者保護

3. 集団的労働法

- ① 組合内部問題
- ② 団体交渉
- ③ 労働協約
- ④ 争議行為
- ⑤ 不当労働行為制度
- ⑥ 官公労働法

テキスト：久保敬治・下井隆史『労働法を学ぶ人のために』世界思想社
ジュリスト別冊『労働判例百選（4版）』4版は7月頃出版される予定です。3版は買う必要はありません。

参考書：

- (1) 全体に関するもの『労働法の争点』『労働法の判例（2版）』いずれも有斐閣
- (2) 社会法の成立に関するもの 渡辺洋三『現代法の構造』（岩波）
- (3) 労基法に関するもの 季刊労働法別冊『労働基準法』（総合労働研究所）労働省労働基準局編『解釈通覧 労働基準法』（総合労働研究所）
- (4) 労組法に関するもの 石川吉右衛門『労働組合法』有斐閣
外尾健一『労働団体法』（築摩）
- (5) 労働法の背景を知るために、白井泰四郎『企業別組合＜増補版＞』（中公新書）は必読文献である。

社会保障法

非常勤講師 中村睦男

（北海道大学教授）

I 総論 社会保障の概念、社会保障制度の歴史（イギリス、ドイツ、アメリカ、フランス）、日本国憲法の生存権の考え方、日本の社会保障制度の仕組み、社会保障財政を取り上げる。

II 各論 公的扶助（生活保護）、医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険について、できるだけ実態や判例に触れながら検討する。

<参考書>

小川政亮編「社会保障法を学ぶ」（有斐閣選書）

近藤文二編「社会保障入門」(有斐閣双書)
西原道雄編「社会保障法」(有斐閣双書)
園部逸夫他編「社会保障行政法」(有斐閣大学収書)
角田豊「社会保障法」(青林書院新社)
荒木誠之「社会保障法」(ミネルヴァ書房)
ジュリスト別冊「社会保障判例百選」(有斐閣)

環境法 助教授 飯塚和之

前期で「不法行為法」、後期で「環境法」を講義する。「不法行為」は、民法債権編の一部であるが、今日、重要な法分野となってきたと同時に、部分的には、『環境法』の領域に含まれているので、本講義のなかで検討することにしている。後期は、固有の『環境法』を対象とする。環境法およびそれを対象とする環境法学は、法律学の分野では、もっとも新しいものの一つであり、生成の途上にある。「環境法」という制定法は存在せず、学問としての体系も確立していない。未開拓の学問領域と言ってよい。本講義ではこれまでの立法、判例、学説その他の素材の検討を通して、環境法の体系を構想してみたい。

講義内容

- 前期 I 不法行為法総論
II 不法行為法各論
III 救済方法論
後期 I 環境法序説
II 公害の規制
III 公害被害の救済
IV 公害犯罪の処罰
V 地域環境管理計画

テキスト：(前期用)野村・伊藤・浅野編『不法行為法』学陽書房

¥ 1,800

後期用テキストは未定。なお、六法は必携のこと。

経済法 講師 和田健夫

経済法という法分野は、現在は独占禁止法を中心に成り立っている。

講義では、まず最初に、経済法の呼び名のもとにまとめられる法現象がなぜ起こったのかということについて述べ、次いで中心となる独占禁止法を、その目的・手法・機能の点から検討する。さらに今回は、同じく市場メカニズムに対する国家の介入でありながら独占禁止法の理念と対立する法制度と独占禁止法の関係について前回よりも詳しく講義する。なお、時間があれば無体財産法(特に特許法)と独占禁止法の関係も講義のなかに加えたい。

講義は実例を示しながら進めてゆく。テキストは特に指定しない。参考書として次のものをあげておく。

- 今村成和 「独占禁止法(新版)」有斐閣
金沢良雄 「経済法(新版)」有斐閣
正田彬・実方謙二編 「独占禁止法を学ぶ(新版)」有斐閣
ジュリスト別冊53 「独禁法審決・判例百選(第二版)」有斐閣

経済刑法 講師 振津隆行

本年度の講義の前半部分では、刑法総論——刑法総則を中心とする刑法の基本的諸原理——を講述し、その後、各論的視点から、経済刑法の個別的諸問題を検討してゆきたい。

- テキスト：内田文昭著『刑法I(総論)』(青林書院新社)及び平場・井上・滝川編『刑法概説(2)各論』(有斐閣)
参考書：平野龍一著『刑法総論I, II』(有斐閣)
中 義勝著『講述犯罪総論』(有斐閣)
中山研一著『口述刑法総論・各論』(成文堂)
その他 別冊ジュリスト『刑法別例百選I, II』(有斐閣)
同 『刑法の争点』(同)

国際法 教授 大谷良雄

本年度の国際法も、前期を従来の国際法の講義に当て、後期はEC法の講義に当てる予定である。内容は次のとおり。

(前期)

- 第1章 現代国際社会と国際法の課題
第2章 国家の地位
第3章 国際法の存在と実現

第4章 領域の管轄と利用

第5章 個人と国際法

第6章 国際協力の法機能

(後期)

第1章 EC法の基礎

第2章 EC法の存在形式 — 法源 —

第3章 EC法の法的性格

第4章 EC法の効力関係

第5章 EC法の解釈と適用方法

参考文献

大平善悟・皆川洸編著「国際法講義」(昭和55年,北樹出版)

小田 滋他編著「わが国裁判所の国際法判例」(昭和53年,有斐閣)

皆川洸・山本草二編著「演習国際法」(昭和52年,青林書院新社)

内田久司・山本草二編著「国際法を学ぶ」(昭和52年,有斐閣選書)

P. ペスカトール著(小田滋監修・大谷良雄・最上敏樹訳)「EC法—ヨーロッパ統合の法構造—」(昭和54年,有斐閣)

大谷良雄著「EC法—新しい法秩序の形成—」(昭和56年10月刊行予定,有斐閣選書)

国際機構論

助教授 丸山直起

現代国際社会のさまざまな現象をドラマにみたとて、戦後のシステム変容と将来の国際システムの展望について講義する。

なお、テキスト(細谷・臼井編『国際政治の世界』有信堂,1981年4月刊)を使用する。

参考文献:武者小路公秀『国際政治を見る眼』岩波新書,齊藤孝『戦間期国際政治史』岩波書店,武者小路他編『国際学』東京大学出版会,鴨他編『相互依存の国際政治学』有信堂,武者小路他編『国際政治学』有信堂,星野昭吉『国際政治—紛争と平和のダイナミズム』新評論

国際資源論

(前半)助教授 丸山直起

エネルギー問題,とりわけ石油と原子力について,その政治的,経済的側面を中心に講義する。参考文献については最初の講義の際提示する。

国際資源論

(後半)教授 大谷良雄

主として海洋の漁業資源および鉱物資源について講義をする予定である。参考文献等については講義の折に提示する。

国際経済法

講師 清水章雄

国際経済関係を規律する公法的規制およびそのような規制が影響を及ぼす国際的な私法関係について講義する。考察の対象には国際法と国内法の両方が含まれる。参考文献は講義の中で適宜指示する。

国際取引法

非常勤講師 小原喜雄
(神戸大学教授)

企業が国際的事業活動する場合の法律問題を体系的に扱う。

<参考文献>

『国際取引』(実務法律大系第2巻,青林書院新社)

ジュリスト 681号『国際化時代の法律問題』

ジュリスト 703号『国際的企業活動の法律問題』

管理科学通論

非常勤講師 浅利英吉
(東海大学助教授)

近代の組織体の運営は既に人智を結集した科学の対象となっており,管理科学の名はここに由来する。管理科学通論ではまずこの学問と技術の連峰を広く展望し,ついでその脊梁山脈を形成する確率論・数理統計学へ入門する。さらにいくつかの数理手法—たとえば予測,線形計画法,シミュレーション—をとりあげ,その理論と実際を論ずることを通じて,管理科学を学ぶ基礎の養成をはかるものとする。

管理科学Ⅱ

助教授 樋口透

社会における諸問題(たとえば,人口増加とその偏在,交通混雑,自然環境の破壊,エネルギー・食料危機,天災,戦争の恐怖,種々の社会不安など)について,これらをどのようにして解決してゆくべきであるかは近年特に重要な課題になっている。これらの問題に共通していることは,同時に考慮す

べき多くの要素が複雑に係わり合っているため、安易な解決手段によると、新たな別の問題が生じたり、一時凌ぎの対策が後になってより大きな逆作用をもたらしたり、ある問題の解決が社会の別のグループにとってはまったく不都合であったりというような、解決を困難ならしめる要因を含んでいることであろう。

このような問題に対処する方法として、システムズ・アプローチと呼ばれる方法（概念）がある。本講では、システムズ・アプローチの考えに基づいて、次のようなテーマで講義を行なう。教科書は用いないが参考文献は講義中に指示します。

1. 社会システム
2. システムズ・アプローチの基礎概念
3. 社会システム分析のための各手法
4. 事例研究

管理科学Ⅲ (前期) 教授 戸島 潤
(後期) 教授 沼田 久

前期ではラムダ算法 (Lambda Calculus) とその応用について述べる。ラムダ算法は1930年代にアメリカの論理学者 Alonzo Church によって数学基礎論上のある問題にこたえるために開発された一種の算法論理であるが、それだけに純粋理論、抽象論理と考えられて来た。ところが、近年「理論計算機科学」(広くいえば「管理科学」) との関連で応用が考えられるに至りにわかにラムダ算法の研究が復活して来た。ちょうどこれは2進法と計算機の関係に似ている。この講義ではラムダ算法について予備知識を前提としない、self-contained な取り扱いをするので論理的な思考能力がありさえすれば理解困難なことはないと思われる。

参考文献

1. Church, Alonzo, *The Calculi of Lambda-Conversion*. Princeton University Press, Princeton, 1941.
2. Curry, Haskell B. and Feys, Robert, *Combinatory Logic, Volume I*. North-Holland, Amsterdam, 1974.
3. Goos, G. and Hartmanis, J. (Edited by), *λ -Calculus and Computer Science Theory (Proceedings of the Symposium Held in Rome, March*

25-27, 1975), Springer-Verlag, Berlin, 1975.

後期では、投資の経済性分析、採算分析およびそれに関連した事項をとり上げて講義する。時には全く独立の話題について自由な討議ができればよいと考えている。

前期の講義内容とは殆んど関連はないので、そのつもりで聴講すること。参考文献はそのつど指示する。

機械化会計 教授 山田 一生

機械化会計とは、その言葉の通り理解すれば、機械化された会計を意味する。より具体的には、会計処理の機械化を意味するのであり、伝統的には会計組織論の研究領域として認識されてきたのである。今日的には、会計学全般にわたる情報システムズ・アプローチの台頭によって、かなり広範囲の研究領域を包摂するものと言えよう。この研究領域は、1966年のAAAの「基礎的会計理論」(A Statement of Basic Accounting Theory)の表明以来、伝統的会計理論に対する強烈なインパクトとして認識され、Accounting Information Systems あるいは情報システムとしての会計を指向する「会計情報システム」へと発展されるのである。

このような会計研究に関する学際的アプローチの結果、伝統的企業会計制度としての会計システムは、とくにコンピューター・インパクトおよび情報科学の影響によって、新しく会計情報システムとして展開される。すなわち会計情報システムは企業の経営管理に関して、(1)事後計算(報告的会計)、(2)現在計算(管理的会計)、(3)事前会計(予測的会計)のそれぞれの情報を提供し、経営意思決定に役立つ情報システムとなる。さらに、最近におけるDB/DC (Data Base/Data Communication)に関するソフトウェア技術分野での発展に伴って、「計画策定と予算編成プロセスへの意思決定支援システム」(Decision Package Programmes)の実証的研究なども登場したのであり、財務計画を中心とするDecision Support Systemsの研究領域などは、今後ますます重視されるべき発展方向となるであろう。

本講座における具体的な講義内容としては、(1)会計処理におけるコンピューターの位置づけ、(2)会計とコンピューター・プランニング、(3)会計とコンピューター・オペレーション、(4)会計とコンピューターライズMIS、(5)コンピューター時代の会計として、その体系化をはかる意図をもつが、講義と演

習と同時併行させる方式を実現できるよう配慮することにする。すなわち、演習プログラムの主要なものとしては、(I) 仕訳プログラム、(II) 勘定記入プログラム、(III) 試算表プログラム、(IV) 精算表プログラム、(V) 修正財務諸表プログラム、(VI) デシジョン・パッケージ・プログラムなどについて、COBOL 言語を中心とする DB/DC アプローチを展開する予定である。これらの同時併行作業を通じて、会計情報システムの原理的ならびに実証的研究をはかり、会計情報システムの基本的設計を究明するとともに、さらに、機械化会計の諸問題についても論述する。

主要参照文献ならびに参考文献については、きわめて多数のものを列挙する結果となり、標準的なテキスト・ブックを指定することは、とうてい困難である。したがって、講義の中で必要に応じて、その都度紹介する。

情報処理

助教授 杉本英二

目標 情報処理技術者として必要な実践力の養成

テーマ A. プログラムの組上げ技術

a 1 プログラムのスタイル

a 2 プログラムの解析とテスト

a 3 プログラムの改良と構造化

B. 構造をもつデータの取扱い技術

b 1 木探索とバックトラック

b 2 ファイル編成とデータベース

テキスト 有沢誠「FORTRAN ソフトウェア工学」共立出版

副読本 s 1 有沢誠「プログラミング・リクリエーション」近代科学社

s 2 マイヤーズ「ソフトウェア・テストの技法」近代科学社

s 3 マイヤーズ「ソフトウェアの複合/構造化設計」近代科学社

s 4 木村泉「プログラム書法」共立出版

授業の進め方

授業は 2 週間単位で進める。小テーマについて概念的説明を行い、演習問題を出题する。学生諸君は 10 日間で、計算機を用いて演習を行い、結果をレポートにまとめ提出する。提出後最初の講義でレポートについての講評を加える。以上の繰返しで授業を進める。プログラミング演習は 10 月頃まで集中的に行う。問題は主に s 1 から出される。

評価 レポートを中心に評価を与える。各人が異なるような課題も出すから日常の演習をきちんとやっておくことが大切である。

補足 まもなくソフトとハードのコスト対比が 9 : 1 になろうと予想されている。これは社会が大規模なソフトを要求し、その開発に多人数が必要で、しかも人力の単純な積算が不可能なためにコストが急激に上るためである。なぜかと言うと、人間相互間の情報交換の必要量は人数の増加に対して幾何学的に増大するのに、個々の情報交換の単価は急には下げられないことにある。情報交換の効率化は情報の表現形式を理解容易な形式に改良する以外にはなく、それは個々のプログラム作成者の教練に依存している。最終的には、個々のシステムの特徴を抽象する能力とセンスによって決まる。この授業は計算機の授業ではなく、システムの動作を認知するためにシステムを抽象化し、構造づけする教練をプログラムを作る作業を通して行う予定である。

プログラミングの上達には、少しばかり大きなプログラムを作って自分で苦しむことが良い。作りの悪いプログラムは三百ステップでも手に負えなくなるだろうから。その反省の上で学ぶ心構えが大切であろう。

応用数学 (代数)

教授 沼田久

経済学、管理科学、統計学等の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線形計画問題の解法の初歩に触れること、線形代数が経済学や経営科学にどのように応用されているかを知ることなどである。計算機論 I、応用数学 (解析) とともに管理科学科の学生は必ず履修することが望ましい。

この科目を履修しているうちに、現代の経済学を学ぶには線形代数の素養が不可欠であることを悟るに至るであろう。その意味で、この科目はむしろ経済学科や商業学科のために開設されているようなものである。しかしながら、単に 6 単位欲しさからというような受講態度では 1 年間を無駄に過ごすことになるであろう。身を入れて勉強しようという人以外は歓迎しない。

高等学校的な数学の得手・不得手とはあまり関係はないが、若干の数学的センス (論理的能力と言ってもよい) または、ある程度の根気のあることが望ましい。当然のことながら、最後まであきらめずに頑張り通す者に好意を寄せたくなるのは人情である。

教科書：沼田 久『線形数学序説』（学術図書出版社，1979）

応用数学（解析）

非常勤講師 小林 正 忠
（元北海道大学教授）

テキスト

松田 正一 }
洲之内治男 } 共著 ORのための基礎数学 丸善
杉山 昌平 }

講義内容

前期 差分方程式

- | | |
|-----------|------------------|
| 1 差分 | 4 差分演算子と和分演算子 |
| 2 和分 | 5 微分演算子と差分演算子の関係 |
| 3 線形差分方程式 | 6 経済学への応用 |

後期 微分方程式

- | | |
|----------|---------------|
| 1 求積法 | 4 初期値問題と境界値問題 |
| 2 線形微方程式 | 5 ラプラス変換 |
| 3 微分演算子 | 6 経済学への応用 |

参考書

- 1 杉山昌平著 差分方程式入門 森北出版
- 2 高橋健人著 差分方程式 培風館

応用数学（統計 I）

助教授 清水川 緋紗子

テキスト：R. V. Hogg; Probability & Statistical Inference.

計 算 機 論 I (前期) 助教授 杉 本 英 二
(後期) 助教授 樋 口 透

前 期

プログラム言語FORTRANの入門コースである。誰しも初めての場
合には気後れするものであるが、努めて計算センターに通い自分でキーをたた
き、スイッチを入れてプログラムを完成させて下さい。特に命令とか、変数
とか、制御というような概念の理解には、実際に自分で類似する例をいくつ

か作って試すと良い。毎年、講義だけですまそうとする学生が見受けられま
すが、プログラム作成問題が出題されるとたちどころに馬脚が現われます。
テキストは自習に便利なスラップ式です。このテキストでは入門者が知らな
くて良いものは書いてありませんから、書いてあるものだけを理解すればよ
いという安心感があります。授業の進度に従って例題を暗誦して下さい。外
国語を学ぶことと同じです。猿まねでも良いですから真似て下さい。そうし
て電算機にかけて確かめて下さい。その際センター中で、機械操作がわから
なかったり、出て来たメッセージがわからない時はまわりにいる先輩やセン
ターの職員の方に当然の権利だと思って聞いて下さい。きちんと礼節を持っ
てお願いすれば必ず教えてくれるはずで。来年度は諸君達が教える番にな
ることを夢見ながら学びましょう。

テキスト 森口繁一 JIS FORTRAN入門（上）

注意事項

1. 演習結果は、その都度提出してもらおう。
2. 前期のテスト結果によっては後期の出席を御遠慮願うことがある。

後 期

日本では事務用プログラムの大部分が書かれているプログラム言語 CO
BOLを講義する。授業は演習を中心に行なう。各人またはグループで6本
程のプログラムを作成してもらおう。

テキスト 大駒誠一 COBOL サイエンス社

計 算 機 論 II

教 授 戸 島 熙

前期では、リスト処理言語Lisp(List Processor)によるプログラミング
と記号処理および人工知能の諸問題への応用について述べる。ある程度の演
習を予定している。

後期では、Lisp の処理系の構造を論ずる。そのさい、Fortran 語で記述
された1,000ステップ程度のLispの処理系を解読し計算機上にインプリメン
トすることを演習として行う予定である。

参考文献

1. Allen, John, *Anatomy of LISP*, McGraw-Hill, New York, 1979.
2. Siklössy, Laurent, *Let's Talk LISP*, Prentice-hall, Englewood Cliffs,

New Jersey, 1976. (日本語訳が近刊の予定である。)

3. Winston, Patrick Henry and Horn, Berthold Klaus Paul, LISP, Addison-Wesley, Reading, Massachusetts, 1981.
4. 記号処理の基礎と応用 (情報処理叢書), 情報処理学会 (近刊予定)

6 教職科目

教育心理学

非常勤講師 湯浅誠哉

(北海道薬科大学助教授)

この講義は、既に「心理学」を修得したものとして行なう。

前半では、発達、学習、人格、適応、評価等教員として必要な問題を取扱う。

後半においては、青少年期の精神衛生、社会病理現象(暴力行為、非行、自殺等)を最近の資料に基づいてとり上げる。

教科書: 未定 (英文のテキストも使用予定)

教育史

助教授 増井三夫

本講義はプロイセン近代教育史を扱う。ここでは、殊にグーツヘルシャフト、軍制、宗教政策及び教育政策との関係が分析され、近代プロイセンに於ける民衆支配構造の一端が明らかにされる予定である。

基本文献

梅根悟, 近代国家と民衆教育 誠文堂新光社

田中昭徳, プロイセン民衆教育政策史 風間書房

M・ウエバー, プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神

藤瀬浩司, 近代ドイツ農業の形成 お茶の水書房

職業指導

非常勤講師 石井茂

(北海道教育大学札幌分校教授)

一、職業指導の問題所在

二、職業指導と進路指導

三、職業と教養について

四、職業指導の史的考察

五、わが国の職業指導の歴史

六、職業指導理論

七、産業構造、職業構造

八、企業と教育

九、職場の人間関係

二、進路指導の現状と問題

はじめに、問題の所在をのべて講義を展開するが、その展開には、多少の変更もあることをおことわりしておきたい。

英文学史 教授 永原和夫

テキスト：W. Clarke: *A Short History of English Literature*, 金星堂。
参考図書は適時指示する。 ¥1,700.

英文学演習 I 助教授 君羅久則

King Lear 研究

平井正穂解説注釈 William Shakespeare: *King Lear* 研究社。

(参考書)

1. C. T. Onions, *A Shakespeare Glossary*. Kinokuniya Reprint ¥1,200.
2. 大塚高信『シェイクスピア手帖』 研究社 ¥800.
3. E. A. Abbott, *A Shakespearean Grammar*. Haskell House, rptd. 1972.
4. A. Schmidt, *Shakespeare Lexicon*. 4th ed. Berlin:Walter de Gruyter, 1923.
5. 大塚高信『シェイクスピアの文法』 研究社 ¥1,700.

最初の授業時にテキストと参考書1と2を用意すること。3, 4, 5は本学図書館蔵のものが利用できる。最初の時間(4月24日)から講義に入ります。尚、その時に演習の具体的な要領も決めますので、履修希望者は必ず出席し、氏名カードを提出されたい。

言語学概論 教授 宮岡伯人

古代から19世紀末にいたる言語研究の歴史をたどりながら言語の形式的・心理的・社会的特性を考え、あわせて言語構造の把握と記述、言語比較の原理と方法についての基礎的な解説をおこなう。テキストは用いないが、参考文献を適時紹介する。

英語学演習 I 教授 武本昌三

F. E. Halliday: *A Concise History of England* vol.1, vol.2.

成美堂 ¥2,100

イギリス史を読みながら、英語の社会的・文化的背景を考えていくことにしたい。出席を重視し、欠席が三分の一を越える者には例外なく単位は認めない。遅刻はすべて欠席扱いにする。

Ⅲ 研究指導要項

長谷部教官担当研究指導

- 1 研究主題
日本経済あるいは北海道経済にかんする統計的分析
- 2 指導要領
個別テーマによる研究・報告・討論

麻田教官担当研究指導

- 1 研究主題
国際経済学（理論および政策）の諸問題
- 2 指導要項
3年生は原書（英語）の輪読。卒業年次生は個別テーマによる卒論指導
- 3 テキスト
G.M.Meier; International economics,
the theory of policy. (1980)

足立教官担当研究指導

- 1 研究主題
国際金融に関する諸問題……国際通貨制度、為替相場制度、金問題、
SOR, L/C など。
- 2 指導要項
(イ) 全般……小樽商科大学の卒業生として恥ずかしくないだけの国際的
視野と語学力の養成に重点を置く。
(ロ) 3年次……国際金融の基礎理論と実際およびこれらに関連した語学
力の養成、3年次生は必ず国際金融を履修し、単位を取得すること。
万一、単位を取得できない場合は自動的にノンゼミに移行する。
(ハ) 4年次……個別的研究指導および卒業論文
- 3 指導テキストおよび参考書

- (イ) 3年次……講義のはじめに指示する。
- (ロ) 4年次……プリンストン大学国際金融双書などを用いる。

井上教官担当研究指導

- 1 研究主題
British Economic History in the 19th Century.
- 2 指導要領
3年次および4年次の前半まで、約1年半をかけて19世紀のイギリス社
会経済史に関する標準的な文献（英文）を輪読します。4年次前半にはま
た卒業論文作成準備のため、わが国の研究文献も併読する予定です。4年
次後半は卒業論文の作成指導に重点を置きます。
- 3 テキスト
S.G.Checkland, The Rise of Industrial Society in England 1815
—1885, 1964.

早見教官担当研究指導

- 1 研究主題 財政学に関する諸問題。
- 2 3年次 昭年56年度は、まず以下の文献を全員でよむ。
Branson, W., *macroeconomic Theory and Policy*.
(Harper, 2nd ed., 1979)
以上を読み終えたら、例年もう1冊、訳書の出していない、比較的近刊の
英書を読むことにしている。
- 3 4年次 以上2冊を手がけると、4年次の前半までかかる。卒論は、
ゼミ生自身の興味と選択にしたがってテーマを選び、2～3回の報告を中
心として作製している。財政に関連するテーマが自から多くなるのは、テ
キスト輪読中に、財政面からのコメントや補足が多いからと思われる。
- 4 申込の条件 (1)経済学概論を履修済みであること。(2)経済学科に所属
すること。(3)数学、統計学を履修すること。(4)英語力に秀でていること。
(5)休まず、努力すること。(6)10名以下の適当な人数になったら締切る。

久次教官担当研究指導

- 1 研究主題 統計学の数理的方法論に重点をおく。
- 2 指導要領
3年次：テキストの精読・討論・演習。
4年次：追加文献の講読および卒業論文の作成。
- 3 テキスト
3年次生：R.S.Pindyck & D.L.Rubinfeld, *Econometric Models and Economic Forecasts* (Mc Graw-Hill, 1976), pp. 580.
4年次生：H.Theil, *Principles of Econometrics* (John Wiley, 1971), pp. 736.
- 4 申込みの条件
「統計学」を履修中の者。
- 5 その他
解析学（偏微分など）、線形代数（固有値問題など）、プログラミング（FORTRAN）については2年次までに修得しておくこと。

藤井教官担当研究指導

- 1 研究主題
一般均衡論関係
- 2 指導要領
本年は方法論に中心をおきますが、卒論の主題は細かく限定しません。
- 3 はじめはHicks, *Causality*を読みます。

増井教官担当研究指導

- 1 研究主題
景気変動の理論的・実証的研究
ポスト・ケインジアン=ポスト・フリードマン期のマクロ経済学新総合による経済変動理論のレビューおよびわが国現代経済の実証的研究をテーマとする。

2 指導要領

- 第1年目：基礎的文献の輪読
- 第2年目：個別研究発表と卒業論文作成
- 3 指導テキストおよび参考書
Robert J. Gordon, *Macroeconomics*, Little, Brown & Company, 1978.
(テキスト)：志田徹朗・武藤恭彦『合理的期待とマネタリズム』日本経済新聞社, 1980; Geoffrey H. Moore, *Business Cycles, Inflation and Forecasting*, NBER Studies in Business Cycles, No.24, Ballinger Publishing Co. 1980; Michael R. Darby, *Intermediate Macroeconomics*, McGraw-Hill Kogakusha (邦訳) 1981; その他(参考書)
- 4 その他
3年生は経済変動論, 計量経済学を履修すること。無断欠席は除名を招くことに注意すること。

吉武教官担当研究指導

- 1 研究主題
「社会政策及び工業経済学の諸問題」
- 2 指導要領
(イ) 3年生は下記英文原書をよむ。
(ロ) 4年生は各自卒業論文にとりかかる。
- 3 指導テキスト
A. Marshall, *Principles of Economics* (8th ed.; London: Macmillan & Co. Ltd.) Papermac ed.

遠藤教官担当研究指導

- 計量経済分析を中心とします。
- 3年：計算のアルゴリズム
 - 4年：卒業論文の作成

佐竹教官担当研究指導

1 研究主題

国際経済学

2 指導要領

3年生は、国際経済学のテキストの購読。4年生は卒業論文の作成。

3 テキスト

未定

野沢教官担当研究指導

1 研究主題

イギリス古典経済学の生誕とその理論構造

2 指導要領

3年生はThe Theory of Moral Sentiments を読み、スミスの国家論を研究する。4年生はThe Wealth of Nations の第1篇を読み 近代市民社会の経済学的分析を追思惟する。

3 テキスト

The Theory of Moral Sentiments. [1790, 6th ed.]
An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations
[1776, 1st ed.]

長谷川教官担当研究指導

1 研究主題

日本経済史。ただし今回は北海道近世経済史（松前藩の成立～明治維新）に焦点をあてる。

2 指導要領

3年次 下記テキストにより、幕藩体制支配下の蝦夷地の性格を把握し、並行して日本経済史の理論と方法への理解を深める作業を行なう。

4年次 研究論文および関連資料の講読。

卒業論文のテーマは北海道経済史に限定しなくともよいが、3年次末まで

に方針を立てること。

3 指導テキストおよび参考書

テキスト 海保嶺夫著『日本北方史の論理』雄山閣、1974年。同著『幕藩制国家と北海道』三一書房、1978年。

参考書 高倉新一郎著『新版アイヌ政策史』三一書房。榎森進他著『新編物語藩史』I 新人物往来社。海保嶺夫著『近世の北海道』教育社歴史新書。

4 申し込み条件

歴史学・社会学・経済史概論・経済原論Ⅱ等を履修していることが望ましい。

5 選考の方法

レポート審査と面接による。

6 その他

ゼミとしての共同の作業や行動を大事にしてほしい。また積極的な研究意欲と行動力を期待する。

鶴沢教官担当研究指導要項

1 研究主題

理論経済学

2 指導要領

3年次では、外国書（英語）による輪読、その他の論文を読む予定。

4年次では、個別テーマに基づく卒業論文作製のための報告と討論を中心にする。

3 指導テキストおよび参考書

Malinvaud, E., *Lectures on Microeconomic Theory*, (1980年度使用)

Kogiku, K.C., *Microeconomic Models*, (1981年度使用予定)

参考書：二階堂副包『数理経済学入門』（日本評論社、1971）

新開、新飯田、根岸『近代経済学』（有斐閣、1972）

奥口、西村、藤本、丸山『経済数学入門』（有斐閣、1980）

4 申込みの条件

経済学概論、数学を履修済で、経済原論Ⅰを履修中または履修済みの事。英語の読解力が高いこと。積極的、協調的な人。

久野教官担当研究指導

- 1 研究主題
会計学（簿記学をふくむ）
- 2 指導要領
3年次：わが国の『企業会計原則』の批判的研究と外書講読を中心にして基礎的知識を修得させる。
4年次：卒業論文の指導—各人の発表をもとにしてディスカッションを行なう。
- 3 指導テキストおよび参考書
3年次の後半において使用する外書は学生諸君と相談のうえ決定する。
- 4 申し込みの条件
2年次終了時において語学その他の基礎教育科目の所要単位を取得し、かつ簿記学の単位を優秀な成績で取得可能な者。
- 5 その他
ゼミという組織にかんがみ、ゼミに求める以上にゼミに貢献できる人物を望みます。

鈴木教官担当研究指導

- 1 研究主題
International Portfolio Investment もしくは、
International Business Finance.
- 2 現在使用しているテキスト
G.W. McKenzie, The Economics of the Euro-currency system 1976.
G. Dufey & J. H. Giddy, The International Money Market, 1978.
R. Z. Aliber, The International Money Game, 2nd edition.
R. I. McKinnon, Money in International Exchange, 1979.

山下教官担当研究指導

- 1 研究主題

マーケティング、経営システム論。

- 2 指導要領
何人かのグループを作り、グループ毎にテーマを決めて協同研究を行う様にする心算である。研究方法としては、基本的文献の講読・参照を含むが、主として最近の学術論文（和文を含む）の精読である。
- 3 テキスト
グループ毎のテーマ及び主要文献については、学生と相談の上決める。

石原(定和)担当研究指導

- 1 研究主題
証券市場論，現代信用理論，株式会社と金融資本
- 2 指導要領
基本文献の講読，報告，討議およびレポート作成
- 3 使用テキスト
川合一郎編『現代信用論』上・下（有斐閣）

篠崎教官担当研究指導

- 1 研究主題
バーナード組織論と人間行動
引続きバーナード組織論を中心に、そこから提起される問題を取上げてみる。一つは官僚制であり、一つは疎外論である。
- 2 指導方針
当初、社会科学的なものの考え方を基礎的に固め、漸次具体的組織論へと進み、最終的には卒論作成へと導く。
- 3 テキスト、参考書
大塚久雄「社会科学の方法」、内田義彦「社会認識の歩み」、同「資本論の世界」以上岩波新書、バーナード「経営者の役割」、ダイヤモンド社、三戸公「官僚制」春秋社。

辻原教官担当研究指導

テーマ：企業経営に関連するトピックスの史的な展開（日本の場合についても取り上げたい）

4年生：『日本の自動車産業の販売戦略の史的展開——コンテンツ・アナリシスによる分析——』

3年生：未定ですが、日本に於けるビッグ・ビジネスの成立についての議論を展開したいと思います。

教科書

3年生は最初、占部都美『経営学入門』

H. Livesay & G. Porter, Merchants and Manufacturers,

Johns Hopkins Univ. Press, 1971.

その他

ゼミナールは大変な努力と忍耐を必要としますので、その覚悟のできていない人は申し込みをしないで下さい。

それに協調性（ゼミ旅行、コンパ、共同作業等）のない人も遠慮して下さい。

中教官担当研究指導

1 研究主題

管理会計

2 指導要領

3年次生：管理会計の概観と基本的な概念の理解をえるために下記の文献を読む。

H. Bierman, Jr., and T. R. Dyckman, Managerial cost Accounting, 2nd ed. 1976

4年次生：各自の選択したテーマについて報告と討論を繰り返しながら、最終的に卒業論文の作成へ導く。

3年次生は、4月のゼミ開講までにつきの参考書を読んでおくこと。

H・ビヤマン、A・R・ドレービン著、佐藤精一・吉川武男訳「管理会計」中央経済社 昭和54年。

3 申込みの条件

2年次修了時に簿記学の単位を取得可能なもの。

林教官担当研究指導

1 研究主題

労務管理論および組織心理学

2 指導要領

3年次生：まず上記の研究主題について基礎的認識を持ってもらい、できるだけ早い時期に個人研究のテーマを設定できるようにしたい。

4年次生：個人研究の報告と議論

3 指導テキストおよび参考書（論文も含む）は多数、適宜指示

4 申し込みの条件

勉学意欲があり語学・統計学を好むこと。

福島教官担当研究指導

1 研究主題

原価計算および管理会計

2 指導要領

3年次：前半では原価計算の基礎知識を修得し、ひきつづき外国文献（英文）の輪読によって知識を深める。

4年次：各自選択した卒業論文のテーマにもとづいて発表と討論をおこなう。

3 テキストおよび参考書

テキスト：3年次前半では高田正淳他編『テキストブック会計学4』、原価計算』（有斐閣、1979）、後半の外国書は未定。

参考書：ゼミの時間に適宜指示するほか 春・夏・冬の各長期休暇には一冊ずつ参考書を読む。

4 留意事項

ゼミ生には旺盛な研究意欲とならんで地道な学習努力を要求する。

森田教官担当研究指導

1 研究主題

先物市場（国際商品および外国為替）の経済理論と政策。

2 指導方針

基礎的な分析用具の修得に努め、現実の諸問題に適用する能力を養うことを目標とする。

3 テキスト

R. I. Mckinnon,

Money in International Exchange, Oxford, 1979

T. A. Hieronymus,

Economics of Futures Trading, Commodity Research Bureau,

J. A. Frenkel and H. G. Johnson, (ed) 1978

The Economics of Exchange Rates, Addison-Wesley, 1978.

斉藤教官担当研究指導

1 研究主題

商品の使用価値を中心とした価値並びに現代における商品の社会的価値をミクロ的には、品質要因、価格要因、販売活動要因（広告など）さらに、マクロ的には、資源環境要因、生活環境要因とも関連づけて追求する。

2 指導要領

(イ) 全般：上記の主題に関する原書や論文を講読し、報告、討論を通じて理解を深める。

(ロ) 56年度：入門書的な原書を講読し、基本的知識の修得とその応用力を養う。

(ハ) 57年度：個人テーマによる文献講読と卒業論文の指導。

3 指導テキストおよび参考書

使用テキスト L. Abbott *Quality and Competition* (1972)

その他 商品政策、消費者保護政策、社会生態的マーケティングに関する参考書。

和田(完)教官担当研究指導

精神障害と職業

精神障害の準備因としての労働環境、職場における人間関係、職種、失業等々の要因を、心理学的、あるいは社会病理学的な立場から考察し、その原因の分析、治療、予防等への接近を試みる。

文献は随時指定（貸与、コピー、購入かをその都度指示）し、できるだけ多読してもらう。また、関連施設の見学、実地調査も並行して行なわれよう。

大谷教官担当研究指導

1 研究主題

国際社会における法秩序の研究（国際法、国際組織法、国際経済法、ヨーロッパ共同体法を含む）

2 指導要領

3年次：原書講読

4年次：卒論作成指導

3 指導テキストおよび参考書

所属決定後相談の上決定する。

神田教官担当研究指導

1 研究主題

民法学上の重要問題の検討

2 指導要領

重要判例や事例問題の研究をととして民法学の理解を深める。

3名ないし4名のグループで共同研究をさせ、その報告をうけて全体で論議する。また、毎回1問ないし2問につき全員に予め解答を作成させ、それを基礎に論議する。

4年次の9月以降は、卒論指導を中心とする。

3 指導テキスト

「民法の争点」ジュリスト増刊，有斐閣
明治大学民事法研究室「新版民法ゼミナール教材」有斐閣
その他はのちに指示します。

- 4 申し込みの条件
財産法 I を履修中の者であること。但し，2月に行なう財産法 I の試験で及第点をとれない者は，その時点で辞退することを期待する。
3年次または4年次で財産法 II を履修すること。
- 5 選考の方法（面接・テスト等）
参加希望者が異常に多い場合にのみ行なう。その方法は後日通知する。
- 6 その他
研究意欲旺盛で地道に勉強する態度が必要です。なお，相当の理由なく欠席する者に対しては卒論の相談に一切応じません。

青竹教官担当研究指導

- 1 研究主題
会社法の研究
- 2 指導要領
会社法が現実の企業活動とどのようにかかわっているかを，判例・学説上論議されているいくつかの具体的素材をとおして理解してもらい，そのうえで，最近とくに問題となっている小規模閉鎖会社の法規制のあり方について検討することにする。
- 3 指導テキストおよび参考書
(1) ジュリスト別冊『会社判例百選(第三版)』 有斐閣
(2) ジュリスト別冊『商法の判例(第三版)』 ”
(3) ジュリスト増刊号『商法の争点』 ”
(4) 鈴木他編『新商法演習 1, 2』 ”
(5) 青竹正一『小規模閉鎖会社の法規制』文真堂

飯塚教官担当研究指導

- 1 研究主題

「法と経済学」の研究

- 2 指導要領
下記テキストの輪読
- 3 指導テキスト
J. M. Oliver, Law and Economics, George Allen & Unwin, 1979
- 4 その他
なお，以上のほか，民法・環境法関係の重要判例の検討を随時行う。
また，夏休み期間等を利用して，法社会学的調査（例：公害調査）を行う。

道幸教官担当研究指導

- 1 研究主題
労働問題・労働判例の研究。それを通じて正確な文章理解，文章表現および討論の仕方を身につけることを目的とする。端的に言えば，読み，書き，話す能力をつけてもらいたい。
- 2 指導要領
3・4年次を通じて労働判例を徹底的に読む予定。3年次前半は，事件の事実と判旨を要約することを毎回・全員に義務づける。その後は，判決批評および問題点をコメントしてもらおう。なお，ほぼ月に1回は諸々の社会科学の文献を読む予定。
- 3 指導テキスト
判決文はその都度指定する。

丸山教官担当研究指導

- 1 研究主題
国際関係の研究
- 2 指導要領
理論的研究と個別テーマの実証研究が中心。
3年次生——テキストの講読・報告を中心に行い，そのときどきのさまざまな個別テーマについて報告・議論する。

4 年次生——卒業論文の作成。

3 テキスト

Edward L. Morse, *Modernization and the Transformation of International Relations*. Free Press.

4 その他

原書テキストは、アメリカの大学の国際関係論のゼミでも使用されており、かなり英語力がないと理解できないし、ついていけない。毎回どんどん進むので、負担は相当なものである。

結城教官担当研究指導

1 研究主題

(イ) 近代立憲主義の基本原則

(ロ) 最新憲法判例の検討

2 指導要領

(イ)を年間のテーマとし、後に指定する文献を講読、討論する。

この間、新たな憲法判例が出された場合、随時これを検討する。

3 指導テキストおよび参考書

(イ) ロック『市民政府論』(岩波文庫), ルソー『社会契約論』(岩波文庫)

シェイエス『第三階級とは何か』(岩波文庫)

W. F. Willoughby, *The Government of Modern States*.

(Part I, Part II をコピーして使用)

(ロ) 判例時報を随時使用

振津教官担当研究指導

1 研究主題

刑法解釈学上の基本問題

2 指導要領

刑法学上の基本的、かつ重要な問題点を採り上げ、担当報告者の報告をもとに討論する。その際、先ず重要判例ならびに学説等を検討し、かつ当該テーマの理解をより深化するために、その歴史的・社会的・思想的ない

し理論史的背景をも探ることにしたい。

3 指導テキストおよび参考書

テーマに応じて、その都度指示する。

和田(健夫)教官担当研究指導

1 研究主題 独禁法上の諸問題

2 指導要領

ゼミ開始後しばらくは独禁法の勉強のため審決・判例を割り当てて報告させる。その作業が一応終了した時点から独禁政策(法)上の様々な問題を取りあげて、個別テーマごとに研究する。毎回担当者には、レポート提出が義務づけられる。

3 指導テキスト

今村成和「独占禁止法(新版)」, 金沢良雄「経済法(新版)」, 正田彬・実方謙二編「独占禁止法を学ぶ(新版)」(いずれも有斐閣)は必ずそろえて各自勉強すること。

使用する審決・判決は審決集・判例集掲載のものである。個別テーマ研究の際の文献・資料はそのつど指示する。

戸島教官担当研究指導

1 研究主題

記号処理, 人工知能。

2 指導要領

Lisp 処理系の研究と記号処理, 人工知能の諸アルゴリズムのLisp によるプログラミングの研究。

3 指導テキストおよび参考書

Allen, John, *Anatomy of LISP*, McGraw-Hill, 1978.

Charniak, Eugene, et al., *Artificial Intelligence Programming*, Lawrence Erlbaum Associates, 1980.

Winston, P. and Horn, K. P., *LISP*, Addison wesley, 1981.

沼田教官担当研究指導

1 研究主題

オペレーションズ・リサーチ

2 指導要領

オペレーションズ・リサーチ全般についての外国書を読む。

専門書の文意を正しく読み取る訓練をする。

自分の理解したことを、他者に正しく、わかり易く伝える訓練をする。

オペレーションズ・リサーチには奇想天外な発想が大切である。ゲームやパズルなどにも興味を抱く軟かい頭が必要である。

山田(一生)教官担当研究指導

1 研究主題

Decision Support Systems for Organization and Management.

組織管理と情報システムに関する理論的ならびに実証的研究。(本ゼミ活動ばかりでなく、サブゼミ活動も併行しながら、種々の事例研究を通じての具体的Modelsの開発研究も予定している。本年度は、特にDecision Support Systems for Data Base Accountingというプロジェクト研究への共同参加を通じて、上記の目的を達成する予定である。)

2 指導要領

(イ) 全般：現代組織管理に役立つ情報システム設計のための基礎理論と応用能力の涵養をはかり 明日の組織管理者あるいはシステム・エンジニアとしての適応力を高めることを目標とする。

(ロ) 56年度：使用テキストに従い、輪読形式で討論をすすめる。サブゼミ活動も同時併行する。

(ハ) 57年度：各自のテーマによる卒業論文の指導と完成。種々の事例研究を通じて理論と実践との橋渡しをはかる活動も同時併行する。

3 指導テキストおよび参考書

1978年ノーベル経済学賞受賞のH. A. Simon 教授の主要文献ならびにM. S. S. Morton教授にはじまるDecision Support Systemsに関する主要文献について取り上げる予定である。(なお、詳細な学習計画について

は、参加者と相談の上決定する。)

4 申込みの条件

上記の研究活動への積極的な参加意欲と行動力をそなえた人物であり、しかも学習活動を継続するための時間余裕と基礎的学力に支障のないことを条件とする。真の人間的尊重をめざした道具としてのコンピューター活用の実現に向けて全力投入できる努力家を歓迎する。

5 その他

現在進行中のプロジェクト研究は、(1) Data Base Accounting.(2)Auto Library Information System.Organization Decision SupportSystem (4) Urban Dynamics.(5)Project Planning&Budgeting, (6) Educational System Dynamicsに関する Decision Support System である。H. A. Simon によれば、将来の組織科学の動向は、(a)新しい制度派経済学、(b)経営実践の国際比較、(c)状況理論の研究、(d)組織・管理と情報システムとの関連研究であるが、本研究指導上での方向性とも基本的に一致するものと考えている。

樋口教官担当研究指導

1 研究主題

社会システム・モデルについての理論的および実証的研究

2 指導要領

テキスト講読、モデル構築、データ解析、調査、プログラミング。

3 使用テキスト

未定

杉本教官担当研究指導

1 研究主題 情報処理の基礎理論

情報処理とは記号列の変換のことである。その際、有限の資源(計算時間、記憶量、人的エネルギー)を有効に活用するための代数的、組合せ的あるいは回帰的構造が研究される。

2 指導要領

Kowalski "Logic for Problem Solving" の講読により、人工知能に関する基本的仕組みの理解を深める。講読に平行してサブゼミにも主体的に参加してもらい、アプリケーションの製作を行う。4年次は卒論指導とする。

3 参考書

Manna Z. "Mathematical Theory of Computation"

藤野精一 "プログラミングの基礎、

水野弘文 "情報代数の基礎、

ファルツ "電子計算機データ構造論、

ウINSTON "人工知能、

ニルソン "人工知能、

マイヤーズ "ソフトウェアの複合/構造化設計

4 補足

今年度は記号論理学の応用をテーマにして、抽象的設計とその具体的設計の修得を目標とする。特に表記法とその体系について深い考察を要求する。サブゼミについては、上級生とともに興味のある対象について、輪読やプログラムの製作など各自の判断で選択的に参加することになっている。

IV 一般教育ゼミ

一般教育ゼミ

助教授 兼 岩 龍 二

本年はテキストとして二階堂副包著、現代経済学の数学的方法、岩波書店を用い、この本の読書会、関連事項の研究会を行う。参加者の学年は問わない。興味のある諸君は4月24日(金)午後5時に新研究棟(管理棟の南)4階の小生の研究室に集まって下さい。

一般教育ゼミ (ドイツ語中級)

教授 中 川 勇 治
講師 大 塚 義 讓

既にドイツ語IIを履修した人を対象とします。テキストは昨年度に引き続き、ヘルマン・ヘッセ「デーミアン」です。途中からの参加も、これまでに読んだ部分を翻訳で済ませて臨めば、十分に可能な筈ですし、また歓迎もします。参加希望者は、4月25日(土)12時30分に206番教室に集まって下さい。

一般教育ゼミナール (スペイン語)

助教授 寺 崎 英 樹

スペイン語IIを履修済みで、なおスペイン語の勉強を続けたいという人を対象とします。アウトプットするためには、まずインプットする(読む)ことが必要であるという前提に立って演習を進めますが、いわゆる訳読は行わず、要旨の理解とそれについての議論にできるだけ重点をおきます。

テキストは、容易なものから始めて、現代の論説文を取上げる予定。参考までに昨年度使用したテキスト(雑誌論文)の邦訳題名をあげておきます。

1. G. バラクロウ「第3世界をめぐる闘争」
2. M. デ・モラーガス「マス・メディアの反乱」
3. J. カラバーニャ「能力主義社会のパラドックス」

参加希望者は、4月23日(木)12時半に研究室へ直接申し出てください。実施する日時などは参加者と協議の上、決定します。